

## 【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成24年6月28日
【事業年度】	第64期（自平成23年4月1日至平成24年3月31日）
【会社名】	丸尾カルシウム株式会社
【英訳名】	Maruo Calcium Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 源吉 嗣郎
【本店の所在の場所】	兵庫県明石市魚住町西岡1455番地
【電話番号】	078(942)2112(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役総務部長 岩島 辰哉
【最寄りの連絡場所】	兵庫県明石市魚住町西岡1455番地
【電話番号】	078(942)2112(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役総務部長 岩島 辰哉
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

##### (1) 連結経営指標等

回次 決算年月	第60期 平成20年3月	第61期 平成21年3月	第62期 平成22年3月	第63期 平成23年3月	第64期 平成24年3月
売上高(百万円)	8,177	8,120	7,706	8,257	9,124
経常利益又は経常損失( ) (百万円)	27	128	265	274	283
当期純利益又は当期純損失 ( )(百万円)	88	300	150	172	204
包括利益(百万円)	-	-	-	123	241
純資産額(百万円)	5,194	4,604	4,781	4,832	5,021
総資産額(百万円)	9,948	8,731	8,767	8,714	9,332
1株当たり純資産額(円)	423.66	392.00	408.80	415.18	432.41
1株当たり当期純利益金額又 は1株当たり当期純損失金額 ( )(円)	7.57	26.18	13.44	15.36	18.27
潜在株式調整後1株当たり当 期純利益金額(円)	-	-	-	-	18.16
自己資本比率(%)	49.7	50.3	52.2	53.3	51.7
自己資本利益率(%)	1.7	6.4	3.4	3.7	4.3
株価収益率(倍)	36.5	4.0	10.2	9.2	7.7
営業活動によるキャッシュ・ フロー(百万円)	728	627	783	509	205
投資活動によるキャッシュ・ フロー(百万円)	637	328	189	157	537
財務活動によるキャッシュ・ フロー(百万円)	237	319	518	357	183
現金及び現金同等物の期末残 高(百万円)	882	845	922	907	760
従業員数(人)	232	243	243	248	252

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 平成22年3月期及び平成23年3月期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益の金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 平成20年3月期及び平成21年3月期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益の金額については、1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次 決算年月	第60期 平成20年3月	第61期 平成21年3月	第62期 平成22年3月	第63期 平成23年3月	第64期 平成24年3月
売上高(百万円)	7,945	7,780	7,387	7,798	8,453
経常利益又は経常損失(百万円)	13	123	266	229	232
当期純利益又は当期純損失(百万円)	102	310	151	139	174
資本金(百万円)	871	871	871	871	871
発行済株式総数(千株)	11,710	11,710	11,710	11,710	11,710
純資産額(百万円)	4,855	4,310	4,498	4,549	4,705
総資産額(百万円)	9,582	8,323	8,399	8,291	8,859
1株当たり純資産額(円)	415.69	384.98	401.81	406.42	420.92
1株当たり配当額 (うち1株当たり中間配当額)(円)	3.00 (-)	3.00 (-)	5.00 (-)	5.00 (-)	5.00 (-)
1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額(円)	8.75	27.06	13.50	12.42	15.61
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額(円)	-	-	-	-	15.51
自己資本比率(%)	50.7	51.8	53.6	54.9	53.0
自己資本利益率(%)	2.0	6.8	3.3	3.1	3.8
株価収益率(倍)	31.5	3.9	10.1	11.4	9.0
配当性向(%)	-	-	37.0	40.3	32.0
従業員数(人)	203	203	204	209	210

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 平成22年3月期及び平成23年3月期以降の潜在株式調整後1株当たり当期純利益の金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 平成20年3月期及び平成21年3月期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益の金額については、1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4. 平成20年3月期及び平成21年3月期の配当性向については、1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

## 2【沿革】

大正15年10月	兵庫県明石市に丸尾儀兵衛（五代）を代表社員として丸尾製粉合資会社を設立、塗料原料である白亜の製造販売を開始。（現本社及び本社工場）
昭和6年3月	本社工場に軽質炭酸カルシウム工場を新設。
昭和23年11月	丸尾儀兵衛（六代）を代表取締役として丸尾製粉株式会社を設立。
昭和24年2月	本社工場にて膠質炭酸カルシウムの製造開始。
8月	丸尾製粉株式会社が丸尾製粉合資会社を吸収合併。
昭和32年3月	兵庫県明石市に土山工場を新設し、膠質・軽質炭酸カルシウムの製造開始。
昭和38年8月	商号を丸尾カルシウム株式会社と改称。
昭和39年1月	大阪証券取引所市場第二部に上場。
1月	茨城県稲敷郡に土浦工場を新設し、膠質・軽質炭酸カルシウムの製造開始。
昭和41年5月	土浦工場に重質炭酸カルシウム工場を新設。
昭和45年5月	長野県下伊那郡に長野鉱業所を新設し、重質炭酸カルシウムの製造開始。 （平成13年3月閉鎖）
昭和54年3月	九州カルシウム株式会社（現連結子会社）を設立し、重質炭酸カルシウムの製造開始。
昭和58年10月	兵庫県明石市に中央研究所を新設。
平成元年6月	大阪市福島区に丸尾大阪ビル完成。
平成8年9月	神戸市兵庫区に神戸本部を新設し、本社業務を行う。
平成15年9月	中国に丸尾（上海）貿易有限公司（現連結子会社）を設立。
平成17年7月	神戸本部を本社へ移転統合。
平成19年9月	中国に東莞立丸奈米科技有限公司（現連結子会社）を設立。

### 3【事業の内容】

当社グループ（当社及び子会社4社で構成）は、塗料原料、ゴム・合成樹脂の補強充填剤、薬品及び食品添加用などの用途向けの各種炭酸カルシウムの製造販売を主たる事業としております。

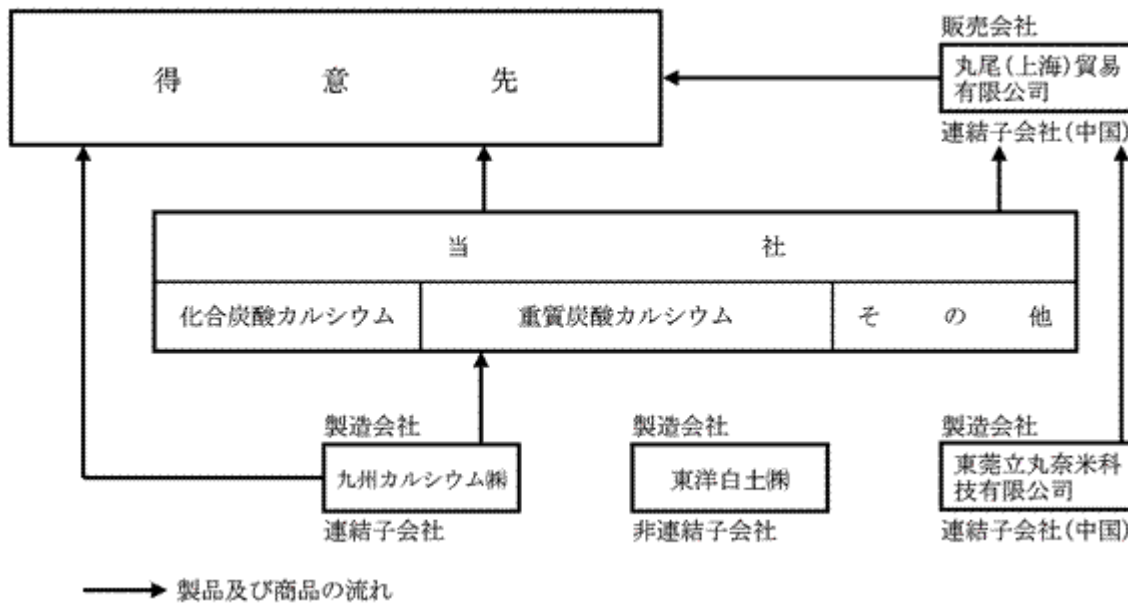
当社と関係会社の位置付けは次のとおりであります。

当社が化合炭酸カルシウム及び重質炭酸カルシウムを、子会社九州カルシウム㈱が重質炭酸カルシウムを、子会社東莞立丸奈米科技有限公司が化合炭酸カルシウムを製造し、当社及び子会社九州カルシウム㈱・丸尾（上海）貿易有限公司が販売しております。

また、当社の関係会社以外からタルク、クレーなどを購入し、当社及び丸尾（上海）貿易有限公司が販売しております。

なお、東洋白土㈱につきましては、平成19年3月20日をもって生産活動を休止しております。

以上述べた事項を事業系統図で示すと下記のとおりになります。



また、品目別の売上高の前連結会計年度・当連結会計年度実績を比率で示すと下記のとおりになります。

品目		前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
グループ 内製造品	化合炭酸カルシウム (%)	40.9	39.3
	重質炭酸カルシウム (%)	11.3	10.3
	その他 (%)	4.1	4.1
	小計 (%)	56.3	53.7
グループ 外購入品	化合炭酸カルシウム (%)	1.6	1.3
	重質炭酸カルシウム (%)	20.6	20.3
	その他 (%)	21.5	24.7
	小計 (%)	43.7	46.3
合計 (%)		100.0	100.0

#### 4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 又は出資金 (千円)	主要な事業の内容	議決権の所有 割合(%)	関係内容
(連結子会社) 九州カルシウム(株)	福岡県 京都郡 みやこ町	20,000	重質炭酸カルシウム製造	52.8	当社の重質炭酸カルシウム製品の一部を製造しております。 なお、当社所有の土地を賃貸しております。 役員の兼任等...有り
丸尾(上海)貿易有限公司	中国 上海市	US\$ 700千	無機薬品及び機械の販売	100.0	当社の各種炭酸カルシウム製品を販売しております。 役員の兼任等...有り
東莞立丸奈米科技有限公司(注)	中国 広東省 東莞市	US\$ 2,100千	化合炭酸カルシウム製造	51.0	当社の化合炭酸カルシウム製品の一部を製造しております。 役員の兼任等...有り

(注) 特定子会社に該当しております。

#### 5【従業員の状況】

##### (1) 連結会社の状況

平成24年3月31日現在

品目	従業員数(人)
化合炭酸カルシウム	121
重質炭酸カルシウム	25
その他	3
全社(共通)	103
合計	252

(注) 従業員数は就業人員であります。

##### (2) 提出会社の状況

平成24年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
210	41.9	16.7	4,828,149

(注) 1. 従業員数は就業人員であります。  
2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

##### (3) 労働組合の状況

当社の労働組合は丸尾カルシウム職員組合と丸尾カルシウム労働組合とがあり、現在会社と両労働組合との間の交渉はすべて平穩裡に推移し特記すべき事項はありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【業績等の概要】

#### (1) 業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、東日本大震災の影響により大きく落ち込んだ後、サプライチェーンの復旧等に伴い夏場にかけて回復に転じたものの、欧州の財政問題の再燃、円高の進展などの世界経済の変調による影響を受け、本格的な回復基調に乗ることなく不透明な状況で推移いたしました。年度末にかけて、米国経済の回復、2月の円高の修正を受け明るい兆しは見えるものの、依然として欧州の財政問題がくすぶる中、中東情勢に起因する原油価格の高騰、原子力発電所停止に伴う電力需給懸念など不安要素は払拭できず先行き不透明な状況にあります。

このような経済情勢下、当社グループにおきましては新規販路の開拓や中国ビジネスの強化により売上高は前年同期に比べ8億67百万円増加し91億24百万円（10.5%増）となりました。損益面では原材料等の価格高騰による影響はあったものの設備投資抑制による減価償却費用の圧縮やコストダウンに努めました結果、営業利益は2億14百万円（前年同期比1百万円 0.6%減）、経常利益は2億83百万円（前年同期比8百万円 3.2%増）、当期純利益は2億4百万円（前年同期比32百万円 18.8%増）となりました。

#### (2) キャッシュ・フロー

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は前連結会計年度末に比べ1億47百万円減少し7億60百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

##### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果増加した資金は2億5百万円で、これは主に減価償却費4億23百万円、仕入債務の増加1億35百万円などによる資金増加に対して、売上債権の増加4億65百万円、法人税等の支払1億69百万円などによる資金減少によるものであります。

##### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果減少した資金は5億37百万円で、これは主に有形固定資産の取得2億94百万円、投資有価証券の取得2億39百万円などの支出によるものであります。

##### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果増加した資金は1億83百万円で、これは主に社債の発行1億円及び長期借入金3億50百万円の収入に対して、長期借入金の返済1億5百万円、短期借入金の減少96百万円及び配当金の支払55百万円などの支出によるものであります。

## 2【生産、受注及び販売の状況】

### (1) 生産実績

当連結会計年度におけるグループ生産実績を品目別に示すと、次のとおりであります。

品目	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	前年同期比(%)
化合炭酸カルシウム(百万円)	3,618	112.8
重質炭酸カルシウム(百万円)	941	101.8
その他(百万円)	359	105.1
合計(百万円)	4,918	109.9

- (注) 1. 金額は、販売価格によっております。  
2. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

### (2) 受注状況

製品について見込み生産を行っているため、該当事項はありません。

### (3) 販売実績

当連結会計年度におけるグループ販売実績をグループ内での製造品・グループ外からの購入品の別及び品目別に示すと、次のとおりであります。

品目		当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	前年同期比(%)
グループ内 製造品	化合炭酸カルシウム(百万円)	3,590	106.2
	重質炭酸カルシウム(百万円)	939	101.0
	その他(百万円)	373	110.7
	小計(百万円)	4,904	105.5
グループ外 購入品	化合炭酸カルシウム(百万円)	118	90.4
	重質炭酸カルシウム(百万円)	1,851	108.9
	その他(百万円)	2,250	126.6
	小計(百万円)	4,220	116.9
合計(百万円)		9,124	110.5

- (注) 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

当連結会計年度におけるグループ販売実績を用途別に示すと、次のとおりであります。

用途	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	前年同期比(%)
合成樹脂(百万円)	3,787	106.0
塗料(百万円)	2,659	113.3
輸出(百万円)	637	107.6
食品・飼料(百万円)	828	109.8
ゴム(百万円)	516	98.6
その他(百万円)	694	150.1
合計(百万円)	9,124	110.5

- (注) 1. 前連結会計年度及び当連結会計年度における主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)		当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	
	金額(百万円)	割合(%)	金額(百万円)	割合(%)
日本ペイント株式会社	1,082	13.1	1,191	13.1

2. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。



### 3【対処すべき課題】

当社グループの「基本方針」に「我々は未知に挑戦し困難に立ち向かう勇氣と力を持とう。明日を切り拓くために。」と掲げており、震災、電力不足、原料高、欧州金融不安など数々の困難が横たわるなか、事業継続に邁進し、創造的・革新的な製品開発や新たな用途開発、海外展開やシナジー効果が期待できる事業提携などを積極的に進めてまいります。また、経営資源の有効活用やコスト低減に取り組み、長期的な売上・利益の拡大に努めてまいります。

#### 研究開発力の強化

炭酸カルシウムを中心とした無機薬品の開発力のさらなる強化に取り組むとともに、研究開発部門と販売部門がさらに密接な連携を図り、お客様のニーズを先取りした創造的・革新的な製品開発に努めてまいります。

#### 海外事業の推進

中国にある販売子会社、生産子会社の設立運営経験を踏まえて、新興国への販売力の強化や事業提携などを積極的に進めてまいります。また、海外事業に携わる人材の育成に努めてまいります。

#### 経営資源の有効活用・コスト低減

当社グループ全体で経営体制の効率化を進めるとともに、省資源設備への転換や生産技術開発の強化によりコスト低減に積極的に取り組んでまいります。

#### コーポレート・ガバナンスの強化

当社グループの「基本方針」の最初に「我々は信義を尊び誠実を旨として広く社会の信頼を得よう。」と掲げており、企業の社会的責任として、コーポレート・ガバナンスの強化にも継続的に努めてまいります。

### 4【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 原料の調達について

当社グループが調達する原料には特定少数の仕入先からしか入手できないものがあり、また、海外からの調達等のため、仕入先の国の政治・経済や為替動向により仕入量及び単価が大きく変動し、当社グループの経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

#### (2) 知的財産権の保護について

当社グループは他社製品との差別化を図るために独自の技術開発と知的財産権の保護に努めておりますが、第三者による当社グループの知的財産を使用した類似製品の製造販売を完全に防止できないことや、当社グループの製品が他社の知的財産権の侵害をしていると判断されることが生じた場合、当社グループの経営成績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

#### (3) 貸倒れリスクについて

当社グループでは売上債権管理として与信年齢調べ、回収条件の厳正運用、引当金の設定などを行い、不測の事態に対応すべく努力しておりますが、取引先の信用不安などにより予期せぬ貸倒れにより当社グループの経営成績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

#### (4) 製品の品質と責任について

当社グループは顧客に信頼されるべく品質第一に製品開発を行い、国際的な品質管理システムに則り製品を設計、製造しております。また、生産物責任賠償保険に加入しておりますが、これらを超える重大な品質トラブルが発生した場合、当社グループ及び製品への信頼を失う恐れがあり、当社グループの経営成績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

#### (5) 事故及び災害について

当社グループは事故及び災害による製造設備の停止を防止するため、設備点検の実施、安全装置、消火設備の充実などを実施する一方、生産拠点の分散を図るなど製品の安定供給体制整備に努めております。しかしながら予想を上回る大規模な産業事故、大規模災害などによる製造設備の損壊を被るような事態が発生した場合、当社グループの経営成績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

#### (6) 繰延税金資産の取崩しについて

当社グループは将来の課税所得に関する予測・仮定に基づき、繰延税金資産の回収可能性の判断を行っておりますが、将来の課税所得の予測・仮定が変更され、繰延税金資産の一部ないしは全部が回収できないと判断された場合、繰延税金資産は減額され、当社グループの経営成績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

(7) 固定資産の減損について

当社グループは固定資産の減損に係る会計基準を適用しております。将来、業績の大幅な悪化や不動産価格の下落等があった場合、減損損失が発生し、当社グループの経営成績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

5 【経営上の重要な契約等】

特記すべき事項はありません。

6 【研究開発活動】

当社グループは、最近ますます求められております商品に対する高機能化、高性能化、あるいはユーザー最終商品の差別化に應えるため、新製品の開発を強力に進めるとともに、今後の事業発展に向けての長期的視点から、事業推進の核となる新技術を確立するため、炭酸カルシウムを母体とした各種無機粉体の基礎研究及び新規用途拡大のための応用研究まで幅広く積極的に取り組んでおります。

現在、当社グループの研究開発は当社中央研究所により推進されており、その研究開発スタッフは全体で29名であり、これは当社グループ総従業員数の11.5%に相当いたします。

当連結会計年度中に支出した研究開発費の総額は3億10百万円（消費税等抜き）となっております。

当連結会計年度における主な研究開発状況及びその成果は、次のとおりであります。

- (1) 近年の商品開発速度に即応すべく新規無機素材の開発と効率的な製造技術の研究を進めております。
- (2) 炭酸カルシウム等を中心とした各種無機粒子の合成、粒子形状と粒子サイズの制御、単分散化、表面改質等の基礎研究を行っております。
- (3) 応用研究開発としては、炭酸カルシウム等の無機素材について従来のシーラント、塗料、合成樹脂、食品等の分野でのより一層の機能性付与の検討と、一方、新規分野への用途開発の研究を進めております。
- (4) 主な成果としては、シーラント、樹脂、食品等の分野での新製品の販売量増加、農業用材料分野での研究実績等を挙げる事が出来ます。

## 7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

### (1) 財政状態の分析

#### (資産)

当連結会計年度末の総資産につきましては、前連結会計年度末に比べ6億17百万円増加し93億32百万円となりました。これは主に売上債権が4億65百万円、投資有価証券が2億65百万円増加したのに対して、生産設備等の有形固定資産が51百万円減少したことなどによるものであります。

#### (負債)

当連結会計年度末の負債につきましては、前連結会計年度末に比べ4億28百万円増加し43億10百万円となりました。これは主に仕入債務1億35百万円、社債1億円、借入金1億48百万円の増加によるものであります。

#### (純資産)

当連結会計年度末の純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ1億89百万円増加し50億21百万円となり、自己資本比率は前連結会計年度末の53.3%から51.7%になりました。

### (2) 経営成績の分析

当連結会計年度における売上高は91億24百万円（前連結会計年度比 8億67百万円、10.5%増加）、売上原価は72億57百万円（前連結会計年度比 8億86百万円、13.9%増加）、売上総利益は18億66百万円（前連結会計年度比 19百万円、1.0%減少）、販売費及び一般管理費16億52百万円（前連結会計年度比 17百万円、1.1%減少）、営業利益は2億14百万円（前連結会計年度比 1百万円、0.6%減少）、経常利益は2億83百万円（前連結会計年度比 8百万円、3.2%増加）、当期純利益は2億4百万円（前連結会計年度比 32百万円、18.8%増加）となりました。

売上高8億67百万円増加の主な要因は、新規販路の開拓や中国ビジネスの強化などによるものであります。

売上原価8億86百万円増加の主な要因は、売上高の増加によるものと、原材料等の価格高騰によるものであります。

販売費及び一般管理費17百万円減少の主な要因は、研究開発費の減少などによるものであります。

以上の結果、営業利益は1百万円の減益となりました。

経常利益は、有利子負債の圧縮による支払利息の減少や為替の影響等により8百万円、当期純利益は、法人税等の税率変更等により32百万円の増益となりました。

### (3) 経営成績に重要な影響を与える要因について

今や日本経済全体が世界経済の動向に左右される度合いを強める中、当社グループにおきましても、海外売上高への依存度が徐々に高まる一方、原材料調達についても国際価格変動の波を直接受けるなど、経済のグローバル化による影響が大きくなっております。

### (4) キャッシュ・フローの状況の分析

当連結会計年度におけるキャッシュ・フローの状況につきましては、「第2【事業の状況】1【業績等の概要】(2) キャッシュ・フロー」に記載しております。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当社グループ（当社及び連結子会社）は、安定した製品物性の確保、設備の合理化等を目的として、当連結会計年度において製造設備を中心に3億66百万円の設備投資を行いました。

#### 2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、以下のとおりであります。

##### (1) 提出会社

平成24年3月31日現在

事業所名 (所在地)	使用目的	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (人)	
			建物及び構築物	機械装置及び運搬具	土地 (面積㎡)	リース資産	その他		合計
本社 (兵庫県明石市) 1	全社管理業務	その他設備	184	0	85 (3,596) [3,597]	1	1	273	34
中央研究所 (兵庫県明石市)	研究開発業務	研究開発設備	56	8	1 (2,250)	0	14	82	29
本社工場 (兵庫県明石市) 1	化合炭酸カルシウム製造	化合炭酸カルシウム生産設備	177	266	27 (23,656) [1,268]	-	7	479	45
土山工場 (兵庫県明石市)	化合炭酸カルシウム製造	化合炭酸カルシウム生産設備	324	354	64 (33,436)	-	7	751	44
土浦工場 (茨城県稲敷郡阿見町)	化合炭酸カルシウム・重質炭酸カルシウム製造	化合炭酸カルシウム・重質炭酸カルシウム生産設備	109	107	26 (37,811)	-	30	273	29

##### (2) 国内子会社

平成24年3月31日現在

会社名・事業所名 (所在地)	使用目的	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (人)	
			建物及び構築物	機械装置及び運搬具	土地 (面積㎡)	リース資産	その他		合計
九州カルシウム(株) 本社工場 (福岡県京都郡みやこ町) 2	重質炭酸カルシウム製造	重質炭酸カルシウム生産設備	18	25	50 (8,950)	1	0	95	15

(3) 在外子会社

平成23年12月31日現在

会社名・事業所名 (所在地)	使用目的	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (人)	
			建物及び構築物	機械装置及び運搬具	土地 (面積㎡)	リース資産	その他		合計
東莞立丸奈米科技有限公司 本社工場 (中国広東省東莞市) 3	化合炭酸カルシウム製造	化合炭酸カルシウム生産設備	77	157	- (-) [5,000]	-	2	236	16

- (注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は工具、器具及び備品及び建設仮勘定の合計額であります。なお、金額には消費税等は含まれておりません。
2. 当社グループは炭酸カルシウムの製造・販売並びにこれらの付随業務の単一セグメントであるため、セグメントの名称に替え、「使用目的」欄には主な製造品目を記載しております。
3. 土地の賃貸借について、以下のものがあります。
1. 土地の一部を賃借しております。賃借している土地の面積については [ ] で外書きしております。
  2. 当社所有の土地を子会社九州カルシウム㈱に貸与しております。
  3. 土地の全部を賃借しております。賃借している土地の面積については [ ] で外書きしております。
  4. 現在休止中の主要な設備はありません。

3 【設備の新設、除却等の計画】

当社グループ(当社及び連結子会社)の設備投資については、需要予測、生産計画、投資効果、資金運用状況等を総合的に勘案して計画しております。

当連結会計年度末現在における設備の新設、拡充及び改修に係る投資予定額は11億円で、その所要資金については自己資金及び借入金を充当する予定であります。

なお、当連結会計年度末における重要な設備の新設計画は次のとおりであります。

会社名 事業所名	所在地	主な製造品目	設備の内容	投資予定金額		資金調達 方法	着手及び完了予定		完成後の 増加能力
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)		着手	完了	
丸尾カルシウム㈱ 土浦工場	茨城県 稲敷郡	化合炭酸 カルシウム	化合炭酸 カルシウム 生産設備	250	-	自己資金 及び借入	平成24年1月	平成24年9月	(注) 2
丸尾カルシウム㈱ 土山工場	兵庫県 明石市	化合炭酸 カルシウム	化合炭酸 カルシウム 生産設備	500	-	自己資金 及び借入	平成24年10月	平成25年3月	(注) 3

- (注) 1. 金額には消費税等は含まれておりません。
2. 処方改善のための設備更新で、生産量の増加は見込んでおりません。
3. 既存設備代替のための新設で、生産量の増加は見込んでおりません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	40,000,000
計	40,000,000

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (平成24年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成24年6月28日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	11,710,000	11,710,000	大阪証券取引所 (市場第二部)	単元株式数 1,000株
計	11,710,000	11,710,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

会社法に基づき発行した新株予約権は、次のとおりであります。

平成23年8月4日取締役会決議

	事業年度末現在 (平成24年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成24年5月31日)
新株予約権の数(個)	121	同左
新株予約権のうち自己新株予約権の数 (個)	-	-
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	121,000	同左
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1株当たり 1	同左
新株予約権の行使期間	自 平成23年8月27日 至 平成53年8月26日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 71 資本組入額 36	同左
新株予約権の行使の条件	<p>新株予約権者は、当社の取締役又は監査役の地位を喪失した日の翌日から10日を経過する日までに限り、新株予約権を一括して行使できるものとする。</p> <p>その他の権利行使の条件は、当社取締役会が定めるものとする。</p> <p>新株予約権者が死亡した場合は、相続人がこれを行使することができるものとする。かかる相続人による新株予約権の行使の条件は、割当契約書に定めるところによる。</p> <p>上記以外の権利行使の条件については、割当契約書に定めるところによるものとする。</p>	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役会の承認を要するものとする。	同左
代用払込みに関する事項	-	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注2)	-

(注)1. 新株予約権の割当日後、当社が、当社普通株式につき、株式分割、株式無償割当または株式併合を行う場合には、次の算式により付与株式数の調整を行い、調整の結果生じる1株未満の端数は、これを切り捨てる。

$$\text{調整後付与株式数} = \text{調整前付与株式数} \times \text{株式分割、株式無償割当または株式併合の比率}$$

また、当社が吸収合併もしくは新設合併を行い新株予約権が承継される場合または当社が完全子会社となる株式交換もしくは株式移転を行い新株予約権が承継される場合には、当社は合併比率に応じ必要と認める付与株式数の調整を行うことができる。

2. 当社が、合併（当社が合併により消滅する場合に限る。）、吸収分割もしくは新設分割（それぞれ当社が分割会社となる場合に限る。）、または株式交換もしくは株式移転（それぞれ当社が完全子会社となる場合に限る。）（以上を総称して以下、「組織再編行為」という。）をする場合において、組織再編行為の効力発生日（吸収合併につき吸収合併の効力発生日、新設合併につき新設合併設立会社成立の日、吸収分割につき吸収分割の効力発生日、新設分割につき新設分割設立会社成立の日、株式交換につき株式交換の効力発生日、及び株式移転につき株式移転設立完全親会社の設立の日をいう。）の直前において残存する本新株予約権（以下、「残存新株予約権」という。）を保有する新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号のイからホまでに掲げる株式会社（以下、「再編対象会社」という。）の新株予約権を交付することとする。ただし、以下の条件に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約または株式移転計画において定めることを条件とする。
- (1) 交付する再編対象会社の新株予約権の数  
新株予約権者が保有する残存新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付するものとする。
  - (2) 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類  
再編対象会社の普通株式とする。
  - (3) 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数  
組織再編行為の条件等を勘案の上、上記「新株予約権の目的となる株式の種類」及び「新株予約権の目的となる株式の数」に準じて決定する。
  - (4) 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額  
交付される各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、再編後払込金額に上記(3)に従って決定される当該各新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数に乗じて得られる金額とする。  
再編後払込金額は、交付される各新株予約権を行使することにより交付を受けることができる再編対象会社の株式1株当たり1円とする。
  - (5) 新株予約権を行使することができる期間  
上記「新株予約権の行使期間」に定める新株予約権を行使することができる期間の開始日と組織再編行為の効力発生日のうちいずれか遅い日から、上記「新株予約権の行使期間」に定める新株予約権を行使することができる期間の満了日までとする。
  - (6) 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項  
新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に準じて決定する。  
なお、新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項は下記のとおりとする。  
本新株予約権の行使により株式を発行する場合において増加する資本金の額は、会社計算規則第17条第1項に従い計算される資本金等増加限度額に0.5を乗じた金額とし、計算の結果1円未満の端数が生じたときは、その端数を切り上げるものとする。  
本新株予約権の行使により株式を発行する場合において増加する資本準備金の額は、上記記載の資本金等増加限度額から上記に定める増加する資本金の額を減じた額とする。
  - (7) 譲渡による新株予約権の取得の制限  
譲渡による新株予約権の取得については、再編対象会社の取締役会の決議による承認を要するものとする。
  - (8) 新株予約権の取得条項  
新株予約権の取得条項に準じて決定する。  
なお、新株予約権の取得条項は下記のとおりとする。  
以下の 、 、 、 または のいずれかの議案につき当社株主総会で承認された場合（株主総会決議が不要の場合は、当社の取締役会決議がなされた場合）は、取締役会が別途定める日に、当社は無償で本新株予約権を取得することができる。  
当社が消滅会社となる合併契約承認の議案  
当社が分割会社となる分割契約もしくは新設分割計画承認の議案  
当社が完全子会社となる株式交換契約もしくは株式移転計画承認の議案  
当社の発行する全部の株式の内容として譲渡による当該株式の取得について当社の承認を要することについての定めを設ける定款の変更承認の議案  
新株予約権の目的である株式の内容として譲渡による当該株式の取得について当社の承認を要することまたは当該種類の株式について当社が株主総会の決議によってその全部を取得することについての定めを設ける定款の変更承認の議案
  - (9) その他の新株予約権の行使の条件  
上記「新株予約権の行使の条件」に準じて決定する。
- (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】  
該当事項はありません。



(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (千株)	発行済株式総 数残高(千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成8年12月21日	1,000	11,710	336,000	871,500	335,000	435,622

(注) 一般募集1,000千株 発行価格671円 資本組入額336円

(6) 【所有者別状況】

平成24年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数 1,000株)								単元未満株 式の状況 (株)
	政府及び地 方公共団体	金融機関	金融商品取 引業者	その他の法 人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	11	12	54	1	-	911	989	-
所有株式数 (単元)	-	1,595	44	2,685	5	-	7,278	11,607	103,000
所有株式数の 割合(%)	-	13.74	0.38	23.13	0.04	-	62.71	100.00	-

(注) 自己株式552,180株は、「個人その他」に552単元及び「単元未満株式の状況」に180株を含めて記載しております。

(7) 【大株主の状況】

平成24年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
中国磁業株式会社	岡山県新見市金谷41	1,245	10.64
山陽化学産業株式会社	兵庫県明石市中崎1丁目9-7	570	4.86
日本興亜損害保険株式会社	東京都千代田区霞が関3丁目7-3	399	3.41
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1丁目1-2	383	3.27
大同生命保険株式会社	東京都中央区晴海1丁目8-11	317	2.70
日本ペイント株式会社	大阪市北区大淀北2丁目1-2	295	2.51
丸尾 次男	兵庫県明石市	293	2.50
丸尾 直子	兵庫県明石市	271	2.32
丸尾 儀兵衛	兵庫県明石市	220	1.88
丸尾 高子	兵庫県明石市	204	1.74
計		4,200	35.87

(注) 上記のほか、自己株式が552千株あります。

## ( 8 ) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

平成24年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 552,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 11,055,000	11,055	-
単元未満株式	普通株式 103,000	-	-
発行済株式総数	11,710,000	-	-
総株主の議決権	-	11,055	-

## 【自己株式等】

平成24年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
丸尾カルシウム(株)	兵庫県明石市魚住町西岡1455	552,000	-	552,000	4.71
計	-	552,000	-	552,000	4.71

## ( 9 ) 【ストックオプション制度の内容】

当社は、新株予約権方式によるストックオプション制度を採用しております。当該制度は、会社法に基づき新株予約権を発行する方法によるものであります。

当該制度の内容は、以下のとおりであります。

(平成23年6月29日定時株主総会決議)

当社の取締役及び監査役に対する退職慰労金制度を廃止したことに伴い、会社法第361条の規定に基づき、当社の取締役及び監査役に対する株式報酬型ストックオプションとしての新株予約権に関する報酬について、平成23年6月29日開催の第63回定時株主総会において決議されたものであります。

決議年月日	平成23年6月29日
付与対象者の区分及び人数	当社取締役9名及び監査役4名
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2)新株予約権等の状況」に記載しております。
株式の数	同上
新株予約権の行使時の払込金額	同上
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	同上
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	同上

## 2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号に該当する普通株式の取得及び会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

### (1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (2)【取締役会決議による取得の状況】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
取締役会(平成23年11月8日)での決議状況 (取得期間 平成23年11月9日~平成23年11月9日)	40,000	5,280,000
当事業年度前における取得自己株式	-	-
当事業年度における取得自己株式	36,000	4,752,000
残存決議株式の総数及び価額の総額	4,000	528,000
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	10.0	10.0
当期間における取得自己株式	-	-
提出日現在の未行使割合(%)	10.0	10.0

### (3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	192	26,472
当期間における取得自己株式	-	-

(注) 当期間における取得自己株式には、平成24年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取による株式は含まれておりません。

### (4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他 (-)	-	-	-	-
保有自己株式数	552,180	-	552,180	-

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成24年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取及び売渡による株式は含まれておりません。

### 3【配当政策】

当社は、財務体質と経営基盤の強化を図るとともに、株主の皆様方への適正な利益還元を重視し、安定的な配当を継続することを基本方針としております。内部留保金につきましては、長期的展望に立った企業基盤強化のため、研究開発投資及び効率化、省力化、環境保全のための設備投資等に活用いたします。

当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としております。

これらの剰余金の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

当事業年度の配当金につきましては、上記の考えに基づき1株当たり5円の配当を実施することを決定いたしました。

当社は、「取締役会の決議により、毎年9月30日を基準日として、中間配当を行うことができる。」旨を定款に定めております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)
平成24年6月28日 定時株主総会決議	55,789	5

### 4【株価の推移】

#### (1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次 決算年月	第60期 平成20年3月	第61期 平成21年3月	第62期 平成22年3月	第63期 平成23年3月	第64期 平成24年3月
最高(円)	294	284	147	155	158
最低(円)	248	77	100	120	125

(注) 最高・最低株価は、大阪証券取引所市場第二部におけるものであります。

#### (2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成23年10月	平成23年11月	平成23年12月	平成24年1月	平成24年2月	平成24年3月
最高(円)	133	138	133	145	158	158
最低(円)	128	126	125	126	141	135

(注) 最高・最低株価は、大阪証券取引所市場第二部におけるものであります。

5 【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役社長 (代表取締役)	技術最高責任者 (CTO)	源吉 嗣郎	昭和23年7月6日生	昭和49年4月 当社入社 平成6年6月 当社取締役就任 平成8年6月 当社常務取締役就任 平成9年6月 当社技術本部長 平成11年6月 当社代表取締役社長就任(現任) 九州カルシウム株式会社代表取締役社長就任(現任) 東洋白土株式会社代表取締役社長就任(現任) 平成12年6月 中国磁業株式会社代表取締役社長就任(現任) 平成13年4月 当社技術最高責任者(CTO) (現任) 平成15年9月 丸尾(上海)貿易有限公司董事長就任(現任) 平成19年9月 東莞立丸奈米科技有限公司董事長就任(現任)	(注)2	128
専務取締役	社長補佐 最高財務責任者 (CFO) コンプライアンス・関係会社担当 アジア事業部・中国事業統括部管掌	今井 一史	昭和29年3月28日生	昭和51年10月 当社入社 平成6年5月 当社総務部長 平成8年6月 当社取締役就任 平成11年6月 当社常務取締役就任 当社社長室長 平成13年4月 当社管理本部長 平成14年4月 当社生産本部長 平成15年6月 当社専務取締役就任(現任) 平成17年4月 当社アジア事業部管掌(現任) 平成21年1月 当社中国事業統括部管掌(現任) 平成22年6月 当社社長補佐(現任) 当社最高財務責任者(CFO) (現任) 当社コンプライアンス・関係会社担当(現任) 経営企画担当 当社購買部管掌	(注)2	112
常務取締役	経営企画・サプライチェーン担当 購買部管掌	丸尾 治男	昭和32年9月14日生	昭和55年4月 株式会社三和銀行(現株式会社三菱東京UFJ銀行)入行 平成11年6月 当社入社 平成12年4月 当社大阪営業所長 平成13年6月 当社取締役就任 平成13年7月 当社営業本部副本部長 平成14年4月 当社東京営業所長 平成17年4月 当社営業本部長 当社大阪営業所長 当社営業企画部長 平成17年6月 当社常務取締役就任(現任) 平成24年4月 当社経営企画・サプライチェーン担当(現任) 当社購買部管掌(現任)	(注)2	134
常務取締役	生産本部長	本庄 覚雄	昭和15年12月19日生	昭和34年3月 当社入社 昭和62年5月 当社本社工場長 平成6年1月 当社土山工場長 平成11年6月 当社第一生産部長 平成12年4月 当社生産本部副本部長 平成15年6月 当社取締役就任 平成18年4月 当社土浦工場長 平成22年6月 当社常務取締役就任(現任) 当社生産本部長(現任)	(注)2	19

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役	アジア事業部長	岡田 英二	昭和25年 5月 4日生	昭和48年 6月 当社入社 平成 6年 1月 当社本社工場長 平成11年 6月 当社技術本部長 平成12年 6月 当社取締役就任(現任) 平成13年 4月 当社生産本部長 平成14年 4月 当社営業本部長 平成17年 4月 当社アジア事業部長(現任)	(注)2	15
取締役	総務部長 秘書室長	岩島 辰哉	昭和27年 4月 18日生	昭和51年 4月 株式会社住友銀行(現株式会社三井住友銀行)入行 平成11年11月 当社入社 平成14年 4月 当社社長室長 平成17年 6月 当社取締役就任(現任) 当社管理本部副本部長 当社経理部長 平成22年 6月 当社総務部長(現任) 当社秘書室長(現任)	(注)2	34
取締役	中央研究所長	森下 俊哉	昭和35年 5月 28日生	昭和58年 4月 当社入社 平成17年 4月 当社中央研究所長(現任) 平成19年 6月 当社取締役就任(現任)	(注)2	10
取締役	中国事業統括 部長	谷井 通宏	昭和32年 2月 20日生	昭和55年 4月 当社入社 平成10年12月 当社神戸営業所長 平成15年 9月 丸尾(上海)貿易有限公司に出向、 総経理就任(現任) 平成21年 1月 当社中国事業統括部長(現任) 平成21年 6月 当社取締役就任(現任)	(注)2	83
取締役	営業本部長 営業開発部長	深津 秀郎	昭和39年 6月 9日生	昭和63年 4月 アスモ株式会社入社 平成 6年 4月 当社入社 平成15年 4月 当社営業開発第二部長 平成17年 9月 当社営業開発部長(現任) 平成18年 4月 当社営業本部副本部長 平成22年 6月 当社取締役就任(現任) 平成24年 4月 当社営業本部長(現任)	(注)3	4
常勤監査役		丸尾 次男	昭和10年11月15日生	昭和33年 5月 当社入社 平成 7年11月 生産本部長付 平成 8年 6月 当社常勤監査役就任(現任)	(注)4	293
常勤監査役		藤原 敏男	昭和23年 3月 28日生	昭和46年 4月 当社入社 平成 5年 5月 当社技術本部第一部長 平成11年 6月 当社技術本部技術管理部長 平成13年 4月 当社中央研究所長 平成17年 4月 当社顧問 平成17年 6月 当社常勤監査役就任(現任)	(注)4	2
監査役		安田 義直	昭和22年 5月 20日生	昭和46年 4月 関西熱化学株式会社入社 平成15年 4月 尼崎ユーティリティサービス株式 会社取締役社長就任 平成20年 6月 当社監査役就任(現任)	(注)5	-
監査役		野田 忠世	昭和22年10月21日生	昭和47年 4月 川崎重工業株式会社入社 平成 7年 4月 同社 エンジン実験部 部長 平成16年 4月 株式会社ケイテック 出向 平成19年 1月 株式会社ケイテック 入社 平成23年 6月 当社監査役就任(現任)	(注)6	-
計						836

- (注) 1. 監査役 安田義直及び野田忠世は、会社法第 2 条第16号に定める社外監査役であります。
2. 平成23年 6月29日開催の定時株主総会の終結の時から 2 年間
3. 平成24年 6月28日開催の定時株主総会の終結の時から 2 年間
4. 平成21年 6月26日開催の定時株主総会の終結の時から 4 年間
5. 平成24年 6月28日開催の定時株主総会の終結の時から 4 年間
6. 平成23年 6月29日開催の定時株主総会の終結の時から 2 年間

## 6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

#### (コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方)

当社は、経営の基本方針に掲げております「社会からの信頼」を得る企業を目指すために、コーポレート・ガバナンスの強化・充実が重要な経営課題であると認識しております。そのコーポレート・ガバナンスの強化に向けて、コンプライアンスの徹底、経営の透明性と健全性の確保並びに効率経営の実践を強力に推進してまいります。

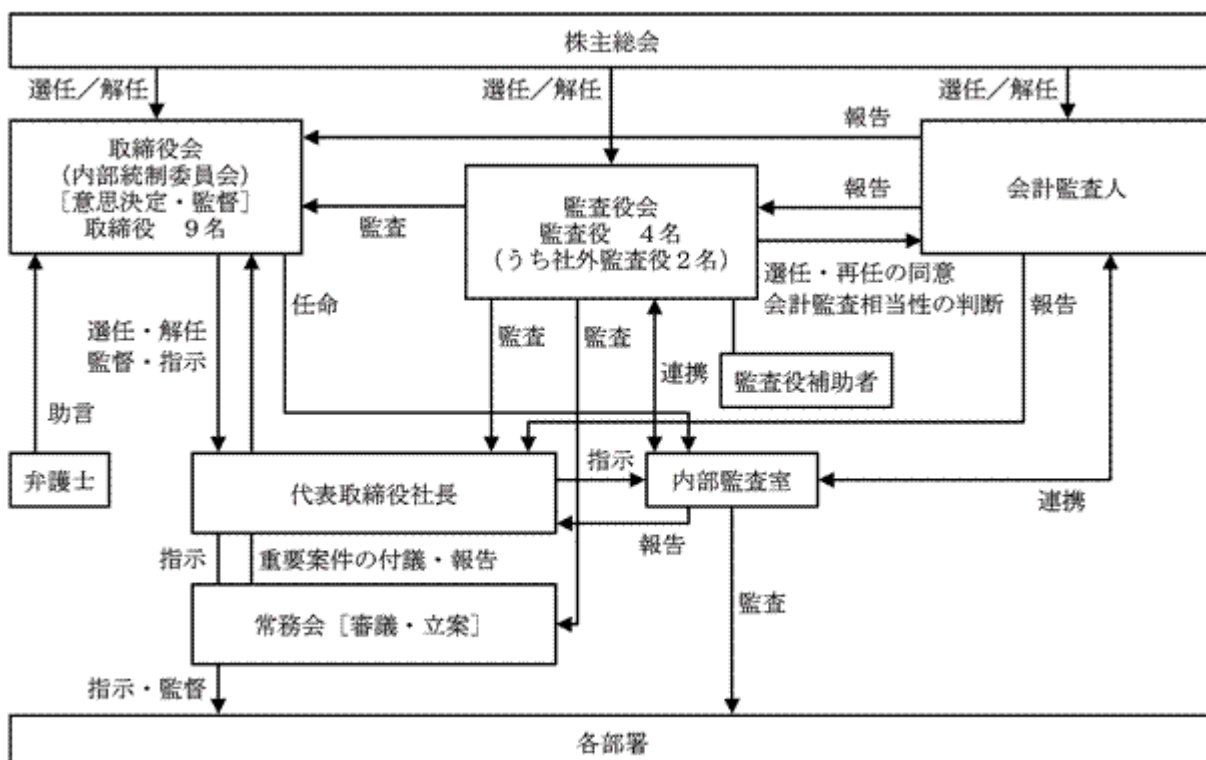
#### 企業統治の体制

##### ・企業統治の体制の概要

当社の経営上の意思決定、執行及び監督に係る経営管理組織体制、その他のコーポレート・ガバナンスに関する施策の実施状況につきましては、以下のとおりであります。

- (a) 当社は、監査役制度を採用しており、監査役が取締役の職務執行を監視する役割を担っております。また、監査役は4名とし、このうち2名を社外監査役とするなど、透明かつ公正な経営管理体制の構築に努めております。
- (b) 上記、4名の監査役は、内部牽制機能として取締役会及びその他重要会議へ積極的に出席し、かつ、原則として2ヶ月に1回監査役会を開催し、監査に関する重要事項について協議を行い、業務執行の適正性をチェックするとともに、会計監査人との連携強化を図り、経営の透明性の向上に努めており、取締役の職務執行を十分に監視できる体制となっております。
- (c) 取締役会は、法令や取締役会規則で定められた事項、その他経営に関する重要事項を決定するとともに、業績の進捗についても議論し、対策等を検討しており、また、業務執行状況を監督する機関と位置付け、当事業年度については16回開催いたしました。
- (d) 弁護士と顧問契約を締結し、必要に応じて適切な助言を得られるようにしております。
- (e) 当事業年度に会計監査業務を執行した公認会計士は植田益司氏、笹川敏幸氏の2名であり、いずれも霞が関監査法人に所属しております。また、当事業年度の監査業務に係る補助者は、公認会計士3名、その他4名であります。なお、当事業年度に会計監査業務を執行した公認会計士の継続監査年数は、いずれも7年未満であります。
- (f) 当社は「財務報告に係る内部統制に関する基本的計画及び方針」に則り、内部統制委員会により任命された内部監査室が業務全般の監査を実施しております。

会社の機関・内部統制の関係を図に示すと下記のとおりになります。



・企業統治の体制を採用する理由

当社取締役会は、業務に精通した取締役で構成され、状況に即した迅速な意思決定を行っており、情報の共有化、組織の緊密化を図り対応しております。また、常勤監査役2名、社外監査役2名による監査を実施しており、経営の監視機能が十分に機能する体制が整っているため、社外取締役は選任しておりません。

・内部統制システムの整備の状況

当社は、会社法及び会社法施行規則に基づき、以下のとおり、当社の業務の適正を確保するための内部統制システムを構築しております。

- (a) 取締役・使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制  
役職員の行動規範となる「基本方針」及び「社内規程」を周知徹底し、法令、定款に適合することを確保し、監査役が内部通報受領者となっております。
- (b) 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制  
重要事項については、稟議書、議事録等適正な保存及び管理を行っております。
- (c) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制  
総務部がリスク管理を行い、顧問弁護士等と連携し企業活動の健全性を確保しております。
- (d) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制  
定期的な役員会、全体会議の開催で、業績や多面的な検討ができる体制を確保しております。
- (e) 当社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制  
定期的に重要な意思決定及び業績の報告を受けるとともに、情報交換を行い、子会社の監査役等が連携して監視できる体制を確保しております。
- (f) 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する体制  
監査役補助者を任命し、監査業務を補助すべき使用人としております。
- (g) 監査役を補助すべき使用人の取締役からの独立性に関する事項  
監査役補助者の人事等については監査役の同意を得るものとしております。
- (h) 取締役及び使用人が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制  
定期的な会議の他、監査役の求めに応じて報告を行う体制を確保しております。
- (i) その他監査役による監査が実効的に行われることを確保するための体制  
監査役は内部統制の実施状況を必要に応じ、担当取締役、使用人、監査役補助者より報告を受ける体制を確保しております。

・リスク管理体制の整備の状況

当社はリスク管理においてコンプライアンス（法令遵守）の徹底を重要課題と位置づけ、企業グループ全体の取締役及び従業員の行動規範として「基本方針」を定め、事業活動における法令遵守の徹底に努めております。

また、事業活動において生ずる様々なリスクへの対応はそのリスクによる被害や悪影響を最小限に止めるべく、全社横断的にリスク管理を重視した業務運営を行っております。

・反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方及びその整備の状況

(a) 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方

当社は、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力及び団体とは決して関わりを持たないことを基本方針としております。

(b) 反社会的勢力排除に向けた整備状況

当社は、反社会的勢力に関する対応部署を総務部と定め、些細なトラブルであっても安易に妥協することなく、速やかに総務部まで連絡するよう社員教育を実施し、組織的に対応しております。また、定期的に警察等の外部専門機関との情報交換会にも出席しており、反社会的勢力に関する情報収集と排除に係る意識の高揚に努めております。

・責任限定契約の内容の概要

当社は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を社外取締役及び社外監査役と締結することができる旨を定款に定めております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令が定める最低責任限度額としております。



#### 内部監査及び監査役監査の状況

当社の内部監査機能としては、代表取締役の直轄組織である内部監査室（人員2名）を設置しております。内部監査室は、社内各部門及び国内外のグループ会社の業務運営状況を定期的に監査し、業務運営効率化に向けた検証を行っている他、全社的な内部管理体制の適正性、有効性についても検証しております。監査の結果については、定期的に社長、取締役会等に報告しており、業務における問題点の指摘と改善に向けた提言を行っております。

監査役監査につきましては、監査役（人員4名〔常勤：2名、非常勤：2名〕）が取締役会及び重要な会議に出席する他、重要な書類等の閲覧、取締役等からの報告、説明などの聴取を実施するとともに、内部監査室並びに会計監査人と随時情報交換を行い、相互連携の元、その監視体制を整えております。また、一般株主の権利を侵害する行為を防ぎ、より充実したコーポレート・ガバナンスの実現を目指すため、監査役4名のうち1名を独立役員に指名しております。なお、監査役会の機能充実を図るため、監査役補助者を任命しております。

#### 社外取締役及び社外監査役

当社監査役4名のうち安田義直、野田忠世の2名は社外監査役であり、当社と人的関係、資本的關係又は取引関係その他の利害関係はありません。

また、上記社外監査役2名を選任している理由は、公正中立的立場から取締役を監視するとともに、適切な意見を頂けるためであります。なお、当該社外監査役のうち安田義直は候補者の中で最も独立性を保持しており、企業経営等の豊富な経験や幅広い見識を基に、公正なコーポレート・ガバナンスの充実に取り組むことができると判断したため独立役員に指定しております。

当社は、社外取締役を選任しておりません。当社は、経営の意思決定機能を持つ取締役会に対し、監査役4名中の2名を社外監査役とすることで経営への監視機能を強化しております。コーポレート・ガバナンスにおいて、外部からの客観的、中立の経営監視の機能が重要と考えており、社外監査役2名による監査が実施されることにより、外部からの経営監視機能が十分に機能する体制が整っているため、現状の体制としております。

当社において、社外取締役及び社外監査役を選任するための独立性について特段の定めはありませんが、専門的な知見に基づく客観的かつ適切な監督又は監査といった機能及び役割が期待され、一般株主と利益相反が生じる恐れがないことを基本的な考え方として選任しております。

#### 役員報酬等

##### イ．役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)				対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	108,177	89,760	7,920	7,480	3,016	9
監査役 (社外監査役を除く。)	13,887	12,000	570	1,000	316	2
社外役員	5,206	4,800	142	200	63	3

(注) 賞与、退職慰労金には、それぞれ当事業年度における役員賞与引当金繰入額、役員退職慰労引当金繰入額を記載しております。

##### ロ．使用人兼務役員の使用人分給与のうち重要なもの

総額(千円)	対象となる役員の員数(人)	内容
57,236	5	部長等としての給与等であります。

##### ハ．役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

基本報酬については、株主総会の決議により定められたそれぞれの報酬総額の上限額（取締役：年額144,000千円以内、監査役：年額22,000千円以内）の範囲内において決定しております。各取締役の月額基本報酬は、それぞれの職位に応じて、経営環境等を勘案して決定しております。また、各監査役の月額基本報酬は、監査役の協議によって決定しております。

賞与及び退職慰労金については、内規に基づいて決定しております。

株式の保有状況

イ．投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額

25銘柄 786,879千円

ロ．保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的  
前事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額(千円)	保有目的
日本ペイント(株)	406,141	226,626	取引関係の維持強化
(株)三井住友フィナンシャルグループ	26,900	69,563	グループとの安定取引目的
バンドー化学(株)	102,931	39,834	取引関係の維持強化
明治ホールディングス(株)	11,700	39,136	取引関係の維持強化
菊水化学工業(株)	67,100	28,853	取引関係の維持強化
オカモト(株)	91,000	27,755	取引関係の維持強化
日東電工(株)	5,409	23,853	取引関係の維持強化
(株)丸運	100,000	21,600	協力関係強化のため
日鉄鉱業(株)	45,360	18,915	原料安定供給のため
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	48,360	18,570	グループとの安定取引目的
(株)みなと銀行	118,419	17,407	取引の安定化
神東塗料(株)	38,000	5,434	取引関係の維持強化
王子製紙(株)	13,450	5,312	取引関係の維持強化
(株)寺岡製作所	13,310	5,057	取引関係の維持強化
タキロン(株)	12,310	4,283	取引関係の維持強化
日本特殊塗料(株)	9,838	3,531	取引関係の維持強化
信越ポリマー(株)	5,380	2,663	取引関係の維持強化
大日本塗料(株)	21,538	2,390	取引関係の維持強化
協同飼料(株)	21,327	2,090	取引関係の維持強化
川上塗料(株)	10,322	825	取引関係の維持強化

当事業年度  
特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額(千円)	保有目的
日本ペイント(株)	406,141	254,650	取引関係の維持強化
(株)三井住友フィナンシャルグループ	26,900	73,248	グループとの安定取引目的
明治ホールディングス(株)	11,700	42,295	取引関係の維持強化
バンドー化学(株)	107,331	33,165	取引関係の維持強化
菊水化学工業(株)	67,100	30,866	取引関係の維持強化
オカモト(株)	91,000	28,847	取引関係の維持強化
(株)丸運	100,000	21,400	協力関係強化のため
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	48,360	19,924	グループとの安定取引目的
(株)みなと銀行	127,378	19,743	取引の安定化
日東電工(株)	5,409	18,039	取引関係の維持強化
日鉄鉱業(株)	45,360	18,007	原料安定供給のため
神東塗料(株)	38,000	10,792	取引関係の維持強化
王子製紙(株)	13,450	5,380	取引関係の維持強化
(株)寺岡製作所	13,310	4,977	取引関係の維持強化
タキロン(株)	12,310	3,717	取引関係の維持強化
日本特殊塗料(株)	9,838	3,551	取引関係の維持強化
信越ポリマー(株)	5,380	2,324	取引関係の維持強化
協同飼料(株)	21,327	2,090	取引関係の維持強化
大日本塗料(株)	21,538	2,067	取引関係の維持強化
川上塗料(株)	10,322	1,290	取引関係の維持強化

八．保有目的が純投資目的である投資株式の前事業年度及び当事業年度における貸借対照表計上額の合計額並びに当事業年度における受取配当金、売却損益及び評価損益の合計額

	前事業年度(千円)	当事業年度(千円)			
	貸借対照表計上額の合計額	貸借対照表計上額の合計額	受取配当金の合計額	売却損益の合計額	評価損益の合計額
非上場株式	5,284	5,284	76	-	(注)
上記以外の株式	37,458	36,294	734	-	11,624

(注) 非上場株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「評価損益の合計額」は記載していません。

**取締役の定数**

当社の取締役は11名以内とする旨定款に定めております。

**取締役の選任の決議要件**

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。また、取締役の選任決議は、累積投票によらない旨を定款に定めております。

**株主総会決議事項を取締役会で決議できることとしている事項**

(a) 自己の株式の取得

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議をもって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。これは、機動的な資本政策の遂行を可能とすることを目的とするものであります。

(b) 中間配当

当社は、会社法第454条第5項の規定により、毎年9月30日を基準日として取締役会の決議によって中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。これは、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とするものであります。

**株主総会の特別決議要件**

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	15,900	-	13,000	-
連結子会社	-	-	-	-
計	15,900	-	13,000	-

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬としましては、監査日数等を勘案して決定しております。

## 第5【経理の状況】

### 1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度（平成23年4月1日から平成24年3月31日まで）の連結財務諸表及び事業年度（平成23年4月1日から平成24年3月31日まで）の財務諸表について、霞が関監査法人により監査を受けております。

なお、当社の監査人は次のとおり異動しております。

前連結会計年度及び前事業年度 有限責任監査法人トーマツ  
当連結会計年度及び当事業年度 霞が関監査法人

臨時報告書に記載した事項は次のとおりであります。

- (1) 異動に係る監査公認会計士等  
選任する監査公認会計士等の名称  
霞が関監査法人  
退任する監査公認会計士等の名称  
有限責任監査法人トーマツ
- (2) 異動の年月日  
平成23年6月29日（第63回定時株主総会開催予定日）
- (3) 退任する監査公認会計士等の直近における就任年月日  
平成22年6月29日（第62回定時株主総会開催日）
- (4) 退任する監査公認会計士等が直近3年間に作成した監査報告書等又は内部統制監査報告書における意見等に関する事項  
該当事項はありません。
- (5) 異動の決定又は異動に至った理由及び経緯  
平成23年6月29日開催予定の第63回定時株主総会終結の時をもって任期満了となることに伴う異動であります。
- (6) (5)の理由及び経緯に対する監査報告書等又は内部統制監査報告書の記載事項に係る退任する監査公認会計士等の意見  
特段の意見はない旨の回答を得ております。

### 3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、または会計基準等の変更等についての確に対応することができる体制を整備するため、各種セミナーへ参加しております。

1【連結財務諸表等】  
(1)【連結財務諸表】  
【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	957,973	810,790
受取手形及び売掛金	3,250,887	4 3,716,508
商品及び製品	258,057	344,783
仕掛品	85,559	81,797
原材料及び貯蔵品	193,979	194,225
繰延税金資産	83,591	75,297
その他	93,870	84,923
貸倒引当金	4,747	6,883
流動資産合計	4,919,171	5,301,442
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1, 2 939,961	1, 2 957,759
機械装置及び運搬具（純額）	1, 2 977,551	1, 2 924,610
土地及び砦山用土地	2 562,033	2 562,033
リース資産（純額）	1 8,905	1 4,563
建設仮勘定	34,151	35,527
その他（純額）	1 46,731	1 33,045
有形固定資産合計	2,569,335	2,517,540
無形固定資産		
鉱業権	38,981	31,936
その他	6,772	6,441
無形固定資産合計	45,754	38,378
投資その他の資産		
投資有価証券	2, 3 650,064	2, 3 917,954
長期貸付金	5,625	4,670
繰延税金資産	5,845	38,023
投資不動産（純額）	1, 2 293,153	1, 2 290,586
その他	234,649	231,748
貸倒引当金	8,783	8,224
投資その他の資産合計	1,180,553	1,474,759
固定資産合計	3,795,642	4,030,678
資産合計	8,714,813	9,332,121

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形及び買掛金	1,525,067	1,734,002
短期借入金	<sup>2</sup> 249,600	<sup>2</sup> 219,202
1年内償還予定の社債	-	33,000
リース債務	4,741	3,021
未払金	303,947	321,349
未払法人税等	101,277	50,296
賞与引当金	137,800	143,000
役員賞与引当金	6,660	6,660
その他	99,201	126,425
流動負債合計	2,428,296	2,636,957
<b>固定負債</b>		
社債	500,000	567,000
長期借入金	<sup>2</sup> 185,753	<sup>2</sup> 364,718
リース債務	4,594	1,754
繰延税金負債	33,025	-
退職給付引当金	502,147	510,035
役員退職慰労引当金	187,250	-
資産除去債務	4,510	4,510
その他	36,604	225,270
固定負債合計	1,453,884	1,673,288
負債合計	3,882,181	4,310,245
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	871,500	871,500
資本剰余金	435,622	435,622
利益剰余金	3,260,527	3,408,858
自己株式	82,934	87,713
株主資本合計	4,484,716	4,628,268
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	196,911	230,360
為替換算調整勘定	34,096	33,929
その他の包括利益累計額合計	162,814	196,431
新株予約権	-	8,634
少数株主持分	185,101	188,541
純資産合計	4,832,632	5,021,875
負債純資産合計	8,714,813	9,332,121

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】  
【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
売上高	8,257,285	9,124,502
売上原価	6,371,264	7,257,767
売上総利益	1,886,021	1,866,735
販売費及び一般管理費	1, 2 1,670,134	1, 2 1,652,148
営業利益	215,886	214,586
営業外収益		
受取利息	1,291	1,616
受取配当金	14,231	14,772
不動産賃貸料	61,443	56,550
デリバティブ評価益	1,005	-
デリバティブ決済益	8,298	10,485
助成金収入	8,836	7,644
その他	13,265	9,928
営業外収益合計	108,373	100,997
営業外費用		
支払利息	13,959	10,012
為替差損	18,512	-
デリバティブ評価損	-	13,863
社債発行費	9,289	1,109
その他	8,141	7,369
営業外費用合計	49,903	32,355
経常利益	274,356	283,228
特別利益		
投資有価証券売却益	571	-
固定資産売却益	3 10	3 405
負ののれん発生益	11,988	-
特別利益合計	12,570	405
特別損失		
固定資産処分損	4 11,350	4 6,907
役員退職慰労金	-	233
投資有価証券評価損	6,444	-
減損損失	-	5 7,045
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	4,510	-
特別損失合計	22,304	14,186
税金等調整前当期純利益	264,622	269,447
法人税、住民税及び事業税	124,964	114,106
法人税等調整額	34,720	52,346
法人税等合計	90,243	61,760
少数株主損益調整前当期純利益	174,378	207,686
少数株主利益	2,378	3,386
当期純利益	172,000	204,300



【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	174,378	207,686
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	31,783	33,449
為替換算調整勘定	19,449	221
その他の包括利益合計	51,232	33,670
包括利益	123,146	241,357
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	127,129	237,917
少数株主に係る包括利益	3,983	3,440

【連結株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
<b>株主資本</b>		
<b>資本金</b>		
当期首残高	871,500	871,500
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	871,500	871,500
<b>資本剰余金</b>		
当期首残高	435,622	435,622
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	435,622	435,622
<b>利益剰余金</b>		
当期首残高	3,144,502	3,260,527
当期変動額		
剰余金の配当	55,975	55,970
当期純利益	172,000	204,300
当期変動額合計	116,025	148,330
当期末残高	3,260,527	3,408,858
<b>自己株式</b>		
当期首残高	82,796	82,934
当期変動額		
自己株式の取得	138	4,778
当期変動額合計	138	4,778
当期末残高	82,934	87,713
<b>株主資本合計</b>		
当期首残高	4,368,829	4,484,716
当期変動額		
剰余金の配当	55,975	55,970
当期純利益	172,000	204,300
自己株式の取得	138	4,778
当期変動額合計	115,886	143,552
当期末残高	4,484,716	4,628,268

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
<b>その他の包括利益累計額</b>		
<b>その他有価証券評価差額金</b>		
当期首残高	228,694	196,911
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	31,783	33,449
当期変動額合計	31,783	33,449
当期末残高	196,911	230,360
<b>為替換算調整勘定</b>		
当期首残高	21,007	34,096
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	13,089	167
当期変動額合計	13,089	167
当期末残高	34,096	33,929
<b>その他の包括利益累計額合計</b>		
当期首残高	207,687	162,814
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	44,872	33,616
当期変動額合計	44,872	33,616
当期末残高	162,814	196,431
<b>新株予約権</b>		
当期首残高	-	-
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	-	8,634
当期変動額合計	-	8,634
当期末残高	-	8,634
<b>少数株主持分</b>		
当期首残高	205,074	185,101
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	19,973	3,440
当期変動額合計	19,973	3,440
当期末残高	185,101	188,541
<b>純資産合計</b>		
当期首残高	4,781,590	4,832,632
当期変動額		
剰余金の配当	55,975	55,970
当期純利益	172,000	204,300
自己株式の取得	138	4,778
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	64,845	45,691
当期変動額合計	51,041	189,243
当期末残高	4,832,632	5,021,875

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	264,622	269,447
減価償却費	457,105	423,748
株式報酬費用	-	8,634
固定資産処分損益（は益）	11,350	6,907
減損損失	-	7,045
貸倒引当金の増減額（は減少）	4,128	1,576
負ののれん発生益	11,988	-
賞与引当金の増減額（は減少）	5,524	5,200
役員退職慰労引当金の増減額（は減少）	25,639	2,229
役員賞与引当金の増減額（は減少）	6,660	-
退職給付引当金の増減額（は減少）	15,517	7,888
受取利息及び受取配当金	15,522	16,388
支払利息	13,959	10,012
デリバティブ評価損益（は益）	1,005	13,863
投資有価証券評価損益（は益）	6,444	-
投資有価証券売却損益（は益）	571	-
有形固定資産売却損益（は益）	10	405
売上債権の増減額（は増加）	244,155	465,628
たな卸資産の増減額（は増加）	54,650	83,138
仕入債務の増減額（は減少）	132,381	135,618
未払金の増減額（は減少）	12,864	19,322
未払消費税等の増減額（は減少）	20,350	2,145
その他	6,420	24,247
小計	588,632	368,037
利息及び配当金の受取額	15,522	16,388
利息の支払額	14,229	10,067
法人税等の支払額	80,432	169,060
営業活動によるキャッシュ・フロー	509,493	205,298
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	6,100	32
定期預金の払戻による収入	36,000	-
有形固定資産の取得による支出	155,684	294,037
有形固定資産の売却による収入	15	600
無形固定資産の取得による支出	453	2,126
投資有価証券の取得による支出	34,707	239,005
投資有価証券の売却による収入	13,638	-
貸付けによる支出	3,300	1,300
貸付金の回収による収入	830	2,255
その他	7,651	3,469

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー	157,412	537,116
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（ は減少）	145,907	96,557
長期借入れによる収入	60,557	350,000
長期借入金の返済による支出	197,240	105,123
社債の発行による収入	490,710	100,000
社債の償還による支出	501,451	-
リース債務の返済による支出	4,577	4,559
少数株主への払戻による支出	4,000	-
自己株式の取得による支出	138	4,778
配当金の支払額	55,818	55,929
財務活動によるキャッシュ・フロー	357,866	183,052
現金及び現金同等物に係る換算差額	8,657	1,550
現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	14,443	147,215
現金及び現金同等物の期首残高	922,317	907,873
現金及び現金同等物の期末残高	907,873	760,658

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

1．連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 3社

連結子会社名 九州カルシウム(株)  
丸尾(上海)貿易有限公司  
東莞立丸奈米科技有限公司

(2) 非連結子会社の名称等

非連結子会社名 東洋白土(株)

(連結の範囲から除いた理由)

非連結子会社は、小規模であり、合計の総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。

2．持分法の適用に関する事項

持分法を適用していない非連結子会社(東洋白土(株))及び関連会社(オーエスシー・ジャパン(株))は、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため持分法の適用範囲から除外しております。

3．連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち丸尾(上海)貿易有限公司及び東莞立丸奈米科技有限公司の決算日は、12月31日であります。

連結財務諸表の作成に当たっては、同決算日現在の財務諸表を使用しております。ただし、1月1日から連結決算日3月31日までの期間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

4．会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。)

時価のないもの

移動平均法による原価法

デリバティブ

時価法

たな卸資産

製品・仕掛品

売価還元法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定しております。)

商品・原材料

総平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定しております。)

貯蔵品

最終仕入原価法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産（リース資産を除く）及び投資その他の資産（投資不動産）

当社及び国内連結子会社は定率法を、また、在外連結子会社は当該国の会計基準の規定に基づく定額法を採用しております。

ただし、当社及び国内連結子会社は平成10年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）は定額法、砵山用土地については生産高比例法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

- ・建物及び構築物 5～50年
- ・機械装置及び運搬具 2～10年

無形固定資産（リース資産を除く）

鉱業権については生産高比例法

ソフトウェアについては、自社における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法

(3) 繰延資産の処理方法

社債発行費

支出時に全額費用として処理しております。

(4) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

売上債権等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員に対して支給する賞与に充てるため、当連結会計年度に負担する支給見込額を計上しております。

役員賞与引当金

役員に対して支給する賞与に充てるため、当連結会計年度に負担する支給見込額を計上しております。

退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務に基づき、当連結会計年度末において発生していると認められる額を計上しております。

(5) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲に関する事項

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(6) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

【追加情報】

（会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用）

当連結会計年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。

（役員退職慰労引当金）

平成23年6月29日開催の第63回定時株主総会において、役員退職慰労金制度の廃止に伴う打切り支給を決議したことに伴い、役員退職慰労引当金を全額取崩し、将来の打切り支給予定額として固定負債のその他（長期未払金）に189,480千円計上しております。

## 【注記事項】

(連結貸借対照表関係)

1 固定資産の減価償却累計額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
有形固定資産	10,301,298千円	10,690,402千円
投資その他の資産(投資不動産)	98,934	101,500

2 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

(財団抵当)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
建物及び構築物	91,046千円	90,313千円
機械装置及び運搬具	701,580	615,311
土地	41,724	41,724
計	834,351	747,201

(不動産抵当)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
建物及び構築物	51,672千円	48,543千円
機械装置及び運搬具	147	98
土地	13,447	13,447
投資不動産	23,761	22,841
計	89,029	84,930

(質権)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
投資有価証券	338,803千円	355,090千円

担保付債務は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
短期借入金	130,000千円	50,000千円
1年内返済予定の長期借入金	52,706	74,980
長期借入金	110,494	221,339
計	293,200	346,319

なお、中国砒業(株)の金融機関からの借入金残高30,012千円(前連結会計年度 36,324千円)に対して土地19,655千円を担保に供しております。

3 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
投資有価証券(株式)	2,576千円	4,576千円



4 連結会計年度末日満期手形

連結会計年度末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当連結会計年度の末日が金融機関の休日であったため、次の連結会計年度末日満期手形が連結会計年度末残高に含まれておりません。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
受取手形	- 千円	83,478千円

(連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
研究開発費	333,068千円	310,174千円
従業員給料・賞与・福利厚生費	379,632	387,529
賞与引当金繰入額	42,610	44,060
退職給付費用	15,115	14,410
役員報酬・役員退職慰労引当金繰入額・ 役員賞与引当金繰入額	135,019	120,436
株式報酬費用	-	8,634
運賃	402,891	418,560
減価償却費	22,102	21,475
貸倒引当金繰入額	4,128	1,576

2 一般管理費に含まれる研究開発費は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
	333,068千円	310,174千円

3 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
機械装置及び運搬具	10千円	405千円

4 固定資産処分損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
建物及び構築物	58千円	594千円
機械装置及び運搬具	1,728	59
解体・撤去費用	9,092	6,209
その他	470	44
計	11,350	6,907

5 減損損失

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

場所	用途	種類
北海道今金町	遊休資産	鉱業権

当社グループの事業は、炭酸カルシウムの製造・販売並びにこれらの付随業務の単一事業であることから、事業用資産は全体で1つの資産グループとし、賃貸用資産及び遊休資産は個別資産ごとにグルーピングをしております。

上記資産については、回収可能価額が帳簿価額を下回ったため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（7,045千円）として特別損失に計上しました。

なお、遊休資産の回収可能価額は正味売却価額により測定しております。正味売却価額は、鉱業権については調査の結果、原石の質が悪く使用が困難なため備忘価額1円としております。

（連結包括利益計算書関係）

当連結会計年度（自平成23年4月1日至平成24年3月31日）

その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

その他有価証券評価差額金：

当期発生額	28,885千円
組替調整額	-
税効果調整前	28,885
税効果額	4,563
その他有価証券評価差額金	33,449

為替換算調整勘定：

当期発生額	221
その他の包括利益合計	33,670

（連結株主資本等変動計算書関係）

前連結会計年度（自平成22年4月1日至平成23年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首株式数（千株）	当連結会計年度増加株式数（千株）	当連結会計年度減少株式数（千株）	当連結会計年度末株式数（千株）
発行済株式				
普通株式	11,710	-	-	11,710
合計	11,710	-	-	11,710
自己株式				
普通株式	514	1	-	515
合計	514	1	-	515

（注）普通株式の自己株式の株式数の増加1千株は、単元未満株式の買取りによる増加1千株であります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

（決議）	株式の種類	配当金の総額（千円）	1株当たり配当額（円）	基準日	効力発生日
平成22年6月29日 定時株主総会	普通株式	55,975	5.00	平成22年3月31日	平成22年6月30日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

（決議）	株式の種類	配当金の総額（千円）	配当の原資	1株当たり配当額（円）	基準日	効力発生日
平成23年6月29日 定時株主総会	普通株式	55,970	利益剰余金	5.00	平成23年3月31日	平成23年6月30日

当連結会計年度（自平成23年4月1日至平成24年3月31日）

## 1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期 首株式数（千株）	当連結会計年度増 加株式数（千株）	当連結会計年度減 少株式数（千株）	当連結会計年度末 株式数（千株）
発行済株式				
普通株式	11,710	-	-	11,710
合計	11,710	-	-	11,710
自己株式				
普通株式	515	36	-	552
合計	515	36	-	552

（注）普通株式の株式数の増加36千株は、取締役会の決議に基づく取得（36千株）及び単元未満株式の買取り（0千株）による増加であります。

## 2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の内訳	新株予約権の 目的となる株 式の種類	新株予約権の目的となる株式の数（株）				当連結会計 年度末残高 （千円）
			当連結会計 年度期首	当連結会計 年度増加	当連結会計 年度減少	当連結会計 年度末	
提出会社 （親会社）	ストック・オプションとし ての新株予約権	-	-	-	-	-	8,634
合計		-	-	-	-	-	8,634

## 3. 配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （千円）	1株当たり配当 額（円）	基準日	効力発生日
平成23年6月29日 定時株主総会	普通株式	55,970	5.00	平成23年3月31日	平成23年6月30日

## (2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （千円）	配当の原資	1株当たり配 当額（円）	基準日	効力発生日
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	55,789	利益剰余金	5.00	平成24年3月31日	平成24年6月29日

## (連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
現金及び預金勘定	957,973百万円	810,790百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	50,100	50,132
現金及び現金同等物	907,873	760,658

## (リース取引関係)

## 1. ファイナンス・リース取引(借主側)

## 所有権移転外ファイナンス・リース取引

## (1) リース資産の内容

## 有形固定資産

主として、フォークリフト(「機械装置及び運搬具」)、情報システムサーバー(「その他」)であります。

## (2) リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計処理基準に関する事項(口)重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっておりますが、その内容は重要性が乏しいため省略しております。

## 2. オペレーティング・リース取引(借主側)

## オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (平成24年 3月31日)
1年内	846	371
1年超	371	-
合計	1,217	371

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは資金運用については短期的な預金等に限定し、資金調達については主に銀行借入及び縁故社債発行による方針です。デリバティブは燃料油の価格変動リスクを回避するために利用し、実需以外の投機的な取引は行いません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である売掛金及び受取手形は顧客の信用リスクに晒されており、そのリスクについては取引先ごとに期日管理及び残高管理を行い定期的に異常値を把握し、その対応を行う体制を取っております。投資有価証券は主に業務上関係を有する企業の株式で市場価格の変動リスクに晒されておりますが、取引関係からその企業の業績把握も比較的容易であり、その時価は定期的に取締役会に報告されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は1年以内の支払期日であります。短期借入金は営業取引に係る資金調達であり、長期借入金、社債及びファイナンス・リース取引に係るリース債務は主に設備投資の必要資金を調達する目的としており、その期間は概ね3年～7年で、大半は固定金利であります。

デリバティブ取引の執行・管理については取引権限及び取引限度額等を定めた社内ルールに従い、リスク管理部署と取引取扱部署は別の部署とし相互に牽制しており、その時価は定期的に取締役会に報告されております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

「2. 金融商品の時価等に関する事項」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません(注)2.参照)。

前連結会計年度(平成23年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1)現金及び預金	957,973	957,973	-
(2)受取手形及び売掛金	3,250,887	3,250,887	-
(3)投資有価証券 その他有価証券	605,939	605,939	-
(4)長期貸付金	5,625	5,625	-
資産計	4,820,425	4,820,425	-
(1)支払手形及び買掛金	1,525,067	1,525,067	-
(2)短期借入金	249,600	249,600	-
(3)未払法人税等	101,277	101,277	-
(4)社債	500,000	489,472	10,527
(5)長期借入金	185,753	184,832	920
負債計	2,561,699	2,550,251	11,448
デリバティブ取引(*)	53,465	53,465	-

(\*)デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については( )で表示しております。

当連結会計年度（平成24年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1)現金及び預金	810,790	810,790	-
(2)受取手形及び売掛金	3,716,508	3,716,508	-
(3)投資有価証券 其他有価証券	687,594	687,594	-
(4)長期貸付金	4,670	4,670	-
資産計	5,219,564	5,219,564	-
(1)支払手形及び買掛金	1,734,002	1,734,002	-
(2)短期借入金	219,202	219,202	-
(3)未払法人税等	50,296	50,296	-
(4)1年以内償還予定の社債	33,000	33,000	-
(5)社債	567,000	577,908	10,908
(6)長期借入金	364,718	359,399	5,318
負債計	2,968,218	2,973,807	5,589
デリバティブ取引(*)	39,601	39,601	-

(\*) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については( )で表示しております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資産

(1)現金及び預金、(2)受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3)投資有価証券

これらの時価について、株式等は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格又は取引金融機関等から提示された価格によっております。

(4)長期貸付金

この時価は、変動金利により短期間で市場金利を反映するため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

負債

(1)支払手形及び買掛金、(2)短期借入金、(3)未払法人税等、(4)1年以内償還予定の社債

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(5)社債

この時価は、当該社債の残存期間及び元利金の合計額を同様の社債の発行において想定される利率で割り引いて現在価値を算定しております。

(6)長期借入金

長期借入金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映し、また、当社の信用状態は実行後大きく異なっていないことから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額によっております。また、固定金利によるものは、一定の期間ごとに区分した当該長期借入金の元利金の合計額を同様の借入において想定される利率で割り引いて現在価値を算定しております。

デリバティブ取引

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
非上場株式	44,124	230,360

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3)投資有価証券」には含めておりません。

3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成23年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超5年以内 (千円)	5年超10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	957,973	-	-	-
受取手形及び売掛金	3,250,887	-	-	-
投資有価証券				
其他有価証券のうち満期があるもの				
(1)債券(社債)	-	-	-	-
(2)その他	-	-	-	-
長期貸付金	1,150	3,450	1,025	-
合計	4,210,010	3,450	1,025	-

当連結会計年度(平成24年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超5年以内 (千円)	5年超10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	810,790	-	-	-
受取手形及び売掛金	3,716,508	-	-	-
投資有価証券				
其他有価証券のうち満期があるもの				
(1)債券(社債)	-	-	-	-
(2)その他	-	-	-	-
長期貸付金	920	2,680	1,070	-
合計	4,528,219	2,680	1,070	-

4. 社債及び長期借入金の連結決算日後の返済予定額

連結附属明細表「社債明細表」及び「借入金等明細表」をご参照下さい。

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(平成23年3月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額(千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	592,667	285,307	307,360
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	592,667	285,307	307,360
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	8,496	9,698	1,201
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	4,776	5,172	396
	小計	13,272	14,870	1,598
合計		605,939	300,177	305,762

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額44,124千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度(平成24年3月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額(千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	625,332	288,809	336,522
	(2) 債券	50,104	50,000	104
	(3) その他	-	-	-
	小計	675,436	338,809	336,626
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	7,341	8,954	1,612
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	4,816	5,182	366
	小計	12,158	14,137	1,978
合計		687,594	352,946	334,647

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額230,360千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2. 売却したその他有価証券

前連結会計年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

種類	売却額(千円)	売却益の合計額(千円)	売却損の合計額(千円)
(1) 株式	13,638	571	-
(2) 債券	-	-	-
(3) その他	-	-	-
合計	13,638	571	-

当連結会計年度(自平成23年4月1日至平成24年3月31日)

種類	売却額(千円)	売却益の合計額(千円)	売却損の合計額(千円)
(1) 株式	-	-	-
(2) 債券	-	-	-
(3) その他	-	-	-
合計	-	-	-



3. 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

当連結会計年度において、有価証券について6,444千円（その他有価証券の株式2,020千円、非上場株式4,423千円）減損処理を行っております。

なお、株式及び債券の減損処理にあたっては、時価が30%以上下落した場合は、時価の下落が一時的であり期末日後1年以内に取得原価にほぼ近い水準まで回復する見込のあることを合理的な根拠をもって予測できる場合を除き「著しく下落した」として減損処理を行っております。

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

該当事項はありません。

（デリバティブ取引関係）

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

前連結会計年度（平成23年3月31日）

対象物の種類	取引の種類	契約額等 （千円）	契約額等のうち 1年超 （千円）	時価 （千円）	評価損益 （千円）
灯油・重油	原油価格スワップ取引	75,950	57,350	53,465	53,465

（注）時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

当連結会計年度（平成24年3月31日）

対象物の種類	取引の種類	契約額等 （千円）	契約額等のうち 1年超 （千円）	時価 （千円）	評価損益 （千円）
灯油・重油	原油価格スワップ取引	57,350	38,750	39,601	39,601

（注）時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び国内の連結子会社は確定給付型の制度として、退職一時金制度を設けております。また、その一部について特定退職金共済制度に加入しております。なお、従業員の退職等に際して割増退職金を支払う場合があります。

2. 退職給付債務に関する事項

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
イ. 退職給付債務(千円)	502,147	510,035
ロ. 年金資産(千円)	-	-
ハ. 未積立退職給付債務(イ+ロ)(千円)	502,147	510,035
ニ. 前払年金費用(千円)	-	-
ホ. 退職給付引当金(ハ-ニ)(千円)	502,147	510,035

(注) 1. 当社グループは退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。

2. 上記の退職給付債務は、特定退職金共済制度より給付される金額等を控除しております。

3. 退職給付費用に関する事項

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
勤務費用(千円)	46,948	51,556

(注) 特定退職金共済制度に対する掛金拠出額を含めて記載しております。

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

当社グループは、簡便法を適用しております。

(ストック・オプション等関係)

1. スtock・オプションに係る費用計上額及び科目名

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
一般管理費の株式報酬費	-	8,634

2. スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) スtock・オプションの内容

	平成23年ストック・オプション
付与対象者の区分及び人数	当社取締役 9名 当社監査役 4名
株式の種類別のストック・オプションの数(注)	普通株式 121,000株
付与日	平成23年 8月26日
権利確定条件	権利確定条件は付されておりません。
対象勤務期間	対象勤務期間の定めはありません。
権利行使期間	平成23年 8月27日から平成53年 8月26日まで (ただし、当社の取締役又は監査役の地位を喪失した日の翌日から10日を経過する日までに限り、新株予約権を一括して行使できるものとする。)

(注) 株式数に換算して記載しております。

(2) スtock・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度(平成24年 3月期)において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

ストック・オプションの数

	平成23年ストック・オプション
権利確定前 (株)	
前連結会計年度末	-
付与	121,000
失効	-
権利確定	121,000
未確定残	-
権利確定後 (株)	
前連結会計年度末	-
権利確定	121,000
権利行使	-
失効	-
未行使残	121,000

単価情報

	平成23年ストック・オプション
権利行使価格 (円)	1
行使時平均株価 (円)	-
付与日における公正な評価単価 (円)	71

### 3. ストック・オプションの公正な評価単価の見積方法

当連結会計年度において付与された平成23年ストック・オプションについての公正な評価単価の見積方法は以下のとおりであります。

使用した評価技法                      ブラック・ショールズ式  
主な基礎数値及び見積方法

	平成23年ストック・オプション
株価変動性(注)1	47.32%
予想残存期間(注)2	15年
予想配当(注)3	5円/株
無リスク利率(注)4	1.57%

(注)1. 平成8年8月から平成23年8月までの株価実績に基づき算定しております。

2. 十分なデータの蓄積がなく、合理的な見積りが困難であるため、権利行使期間の中間点において行使されるものと推定して見積もっております。

3. 平成22年3月期及び平成23年3月期の配当実績によっております。

4. 予想残存期間に対応する期間に対応する国債の利回りであります。

### 4. ストック・オプションの権利確定数の見積方法

基本的には、将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しております。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳は次のとおりであります。

	(単位：千円)	
	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
繰延税金資産		
退職給付引当金	203,919	183,070
役員退職慰労引当金(長期未払金)	76,213	67,581
賞与引当金	56,032	54,320
減価償却超過額	6,233	11,424
投資有価証券評価損	43,266	37,890
減損損失	46,878	42,832
貸倒引当金繰入限度超過額	5,477	5,525
社会保険料(賞与分)	6,836	6,991
環境対策費	7,355	6,441
その他	25,725	24,260
小計	477,939	440,340
評価性引当額	255,522	174,689
繰延税金資産合計	222,416	265,650
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	108,850	104,286
固定資産圧縮積立金	57,155	48,042
繰延税金負債合計	166,005	152,329
繰延税金資産の純額	56,411	113,321

(注) 前連結会計年度及び当連結会計年度における繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
流動資産 - 繰延税金資産	83,591	75,297
固定資産 - 繰延税金資産	5,845	38,023
固定負債 - 繰延税金負債	33,025	-

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異がありますが、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳は次のとおりであります。

	(単位：%)	
	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
法定実効税率	40.6	40.6
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	2.0	2.9
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	1.1	1.1
住民税均等割額	3.2	3.2
連結子会社との実効税率差異	0.1	1.8
試験研究費の総額に係る法人税額の特別控除	9.7	8.3
評価性引当額の増減	1.5	20.1
繰越欠損金	0.6	-
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	-	8.7
その他	2.9	1.2
税効果会計適用後の法人税等の負担率	34.1	22.9

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」(平成23年法律第114号)及び「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」(平成23年法律第117号)が平成23年12月2日に公布され、平成24年4月1日以後に開始する連結会計年度から法人税率の引下げ及び復興特別法人税の課税が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の40.6%から、平成24年4月1日に開始する連結会計年度から平成26年4月1日に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異については38.0%に、平成27年4月1日に開始する連結会計年度以降に解消が見込まれる一時差異については35.6%となります。

この税率変更により、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)は8,708千円減少し、その他有価証券評価差額金は14,797千円増加し、法人税等調整額は23,506千円増加しております。

(資産除去債務関係)

当連結会計年度末(平成24年3月31日)

1. 資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

重要性が乏しいため記載を省略しております。

2. 資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上していないもの

当社は礪山用土地の一部について閉山時に採掘跡などの保全義務を有しておりますが、その時期や保全範囲が明確でないことから資産除去債務を合理的に見積ることができません。従いまして当該債務に見合う資産除去債務を計上しておりません。

(賃貸等不動産関係)

当社では、兵庫県その他の地域において、賃貸商業用土地(施設を含む。)や賃貸住宅を所有しております。また、自社で使用しているオフィスビルの一部を賃貸しており、当該部分を賃貸等不動産に含めております。これら以外に、所有土地において現在遊休となっている土地があります。

また、当該賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額、期中増減額及び時価は、次のとおりであります。

(単位:千円)

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
連結貸借対照表計上額		
期首残高	410,150	412,413
期中増減額	2,263	2,566
期末残高	412,413	409,847
期末時価	1,629,350	1,606,856

- (注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。
2. 期中増減額のうち、前連結会計年度の主な増加額は土地の整地(5,000千円)によるものであります。当連結会計年度の主な減少額は不動産の減価償却(2,566千円)であります。
3. 期末の時価は、主要な物件については社外の不動産鑑定士による不動産鑑定評価書に基づく価額であります。ただし、直近の評価時点から、一定の評価額や適切に市場価額を反映していると考えられる指標に重要な変動が生じていない場合には、当該評価額や指標を用いて評価した金額によっております。また、重要性の乏しいものについては、一定の評価額や適切に市場価額を反映していると考えられる指標に基づく価額等を時価としております。

また、賃貸等不動産に関する損益は、次のとおりであります。

(単位:千円)

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
賃貸等不動産		
賃貸収益	57,627	53,246
賃貸費用	14,216	13,875
差額	43,411	39,370
その他(売却損益等)	-	-

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

当社グループは、炭酸カルシウムの製造・販売並びにこれらの付随業務の単一セグメントであるため、記載は省略しております。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

当社グループは、炭酸カルシウムの製造・販売並びにこれらの付随業務の単一セグメントであるため、記載は省略しております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	化合炭酸カルシウム	重質炭酸カルシウム	その他	合計
外部顧客への売上高	3,511,185	2,630,448	2,115,650	8,257,285

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：千円)

日本	アジア オセアニア	米州	欧州	合計
7,151,031	1,012,921	76,160	17,171	8,257,285

(注) 売上高は納入先の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
日本ペイント株式会社	1,082,563	炭酸カルシウムの製造・販売

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	化合炭酸カルシウム	重質炭酸カルシウム	その他	合計
外部顧客への売上高	3,709,085	2,791,216	2,624,200	9,124,502



## 2. 地域ごとの情報

### (1) 売上高

(単位：千円)

日本	アジア オセアニア	米州	欧州	合計
7,816,837	1,200,813	92,083	14,768	9,124,502

(注) 売上高は納入先の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

### (2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

## 3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
日本ペイント株式会社	1,191,293	炭酸カルシウムの製造・販売

### 【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

当社グループは、炭酸カルシウムの製造・販売並びにこれらの付随業務の単一セグメントであるため、記載は省略しております。

### 【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

該当事項はありません。

### 【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

当社グループは、炭酸カルシウムの製造・販売並びにこれらの付随業務の単一セグメントであるため、記載は省略しております。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等の場合に限る。）等

前連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有） 割合（%）	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
主要株主	中国礮業(株)	岡山県新見市	49,000	重質炭酸カルシウム製造	(被所有) 直接 11.2	同社製品の購入 役員の兼任 従業員の出向	重質炭酸カルシウム製品の購入	746,018	買掛金	330,427

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有） 割合（%）	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
主要株主	中国礮業(株)	岡山県新見市	49,000	重質炭酸カルシウム製造	(被所有) 直接 11.3	同社製品の購入 役員の兼任 従業員の出向	重質炭酸カルシウム製品の購入	752,198	買掛金	327,908

(注) 1. 取引条件及び取引条件の決定方法

取引価格は、市場価格を参考にして決定しております。

2. 上記取引金額には消費税等は含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等の場合に限る。）等

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有） 割合（%）	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
主要株主	中国礮業(株)	岡山県新見市	49,000	重質炭酸カルシウム製造	(被所有) 直接 47.2	同社製品の購入 役員の兼任	重質炭酸カルシウム製品の購入	756	買掛金	-

(注) 1. 取引条件及び取引条件の決定方法

取引価格は、市場価格を参考にして決定しております。

2. 上記取引金額には消費税等は含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

( 1株当たり情報 )

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
1株当たり純資産額	415.18円	432.41円
1株当たり当期純利益金額	15.36円	18.27円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	-円	18.16円

(注) 1. 前連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益の金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

2. 1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益金額(千円)	172,000	204,300
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益金額(千円)	172,000	204,300
期中平均株式数(千株)	11,194	11,180
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額		
当期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(千株)	-	71
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式の概要		-

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	利率 (%)	担保	償還期限
丸尾カルシウム(株)	第7回銀行保証付 無担保社債	平成22年12月28日	500,000	500,000	0.74	なし	平成26年12月26日
丸尾カルシウム(株)	第8回銀行保証付 無担保変動利付社債	平成24年03月30日	-	100,000 (33,000)	0.44	なし	平成27年03月31日
合計	-	-	500,000	600,000 (33,000)	-	-	-

(注) 1. ( )内書は、1年以内の償還予定額であります。

2. 連結決算日後5年以内における償還予定額は以下のとおりであります。

1年以内 (千円)	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
33,000	33,000	534,000	-	-

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	158,750	62,281	1.88	-
1年以内に返済予定の長期借入金	90,850	156,920	1.09	-
1年以内に返済予定のリース債務	4,741	3,021	-	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	185,753	364,718	0.77	平成26年6月～ 平成29年3月
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	4,594	1,754	-	平成25年6月～ 平成28年11月
その他有利子負債	-	-	-	-
合計	444,689	588,696	-	-

(注) 1. 平均利率については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。

3. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年以内における返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	121,094	99,785	82,056	61,783
リース債務	995	530	202	26

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

(2)【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(千円)	2,108,524	4,482,011	6,852,087	9,124,502
税金等調整前四半期(当期) 純利益金額(千円)	86,144	148,460	232,907	269,447
四半期(当期)純利益金額 (千円)	70,498	82,868	152,400	204,300
1株当たり四半期(当期)純 利益金額(円)	6.30	7.40	13.62	18.27

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額 (円)	6.30	1.11	6.22	4.65

2【財務諸表等】  
(1)【財務諸表】  
【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	753,726	637,729
受取手形	623,845	589,461
売掛金	2,573,336	3,006,404
商品及び製品	212,386	310,186
仕掛品	85,559	81,797
原材料及び貯蔵品	172,058	178,379
前払費用	7,132	14,217
繰延税金資産	79,777	73,020
デリバティブ債権	53,465	39,601
その他	41,965	36,220
貸倒引当金	4,693	6,821
流動資産合計	4,598,560	4,960,196
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	744,113	769,456
構築物（純額）	94,394	93,190
機械及び装置（純額）	803,331	730,110
車両運搬具（純額）	13,295	9,770
工具、器具及び備品（純額）	40,904	27,826
礫山用土地	22,822	22,822
土地	539,210	539,210
リース資産（純額）	6,339	2,917
建設仮勘定	3,200	34,257
有形固定資産合計	2,267,611	2,229,562
無形固定資産		
鉱業権	38,981	31,936
ソフトウェア	6,080	3,796
その他	-	2,064
無形固定資産合計	45,061	37,797
投資その他の資産		
投資有価証券	617,488	833,274
関係会社株式	12,076	14,076
出資金	2,750	2,750
関係会社出資金	168,407	191,687
従業員長期貸付金	5,625	4,670
関係会社長期貸付金	57,248	41,886
破産更生債権等	2,383	1,787
長期前払費用	14,872	1,683

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
繰延税金資産	-	32,210
投資不動産(純額)	<sup>1</sup> 293,153	<sup>1</sup> 290,586
長期預金	100,000	100,000
その他	114,593	125,477
貸倒引当金	8,783	8,224
投資その他の資産合計	1,379,814	1,631,866
固定資産合計	3,692,487	3,899,226
資産合計	8,291,048	8,859,422
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形	59,196	143,363
買掛金	<sup>3</sup> 1,508,326	<sup>3</sup> 1,583,426
短期借入金	<sup>2</sup> 130,000	<sup>2</sup> 50,000
1年内償還予定の社債	-	33,000
1年内返済予定の長期借入金	<sup>2</sup> 82,702	<sup>2</sup> 142,835
リース債務	3,774	2,055
未払金	287,394	307,266
未払費用	74,685	86,654
未払法人税等	81,320	42,832
前受金	1,091	2,067
前受収益	2,447	2,193
預り金	6,517	15,750
賞与引当金	133,000	138,000
役員賞与引当金	6,660	6,660
流動負債合計	2,377,115	2,556,105
<b>固定負債</b>		
社債	500,000	567,000
長期借入金	<sup>2</sup> 130,845	<sup>2</sup> 323,835
リース債務	2,881	1,008
長期未払金	18,100	189,580
繰延税金負債	33,025	-
退職給付引当金	487,387	494,478
役員退職慰労引当金	169,250	-
資産除去債務	4,510	4,510
その他	18,504	17,690
固定負債合計	1,364,503	1,598,101
負債合計	3,741,619	4,154,207

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	871,500	871,500
資本剰余金		
資本準備金	435,622	435,622
資本剰余金合計	435,622	435,622
利益剰余金		
利益準備金	184,475	184,475
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金	83,482	85,791
別途積立金	2,609,100	2,609,100
繰越利益剰余金	251,271	367,509
利益剰余金合計	3,128,328	3,246,876
自己株式	82,934	87,713
株主資本合計	4,352,517	4,466,286
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	196,911	230,294
評価・換算差額等合計	196,911	230,294
新株予約権	-	8,634
純資産合計	4,549,428	4,705,215
負債純資産合計	8,291,048	8,859,422



【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
<b>売上高</b>		
製品売上高	4,178,980	4,343,864
商品売上高	3,619,296	4,109,190
売上高合計	7,798,276	8,453,055
<b>売上原価</b>		
製品期首たな卸高	202,793	178,686
当期製品製造原価	2,951,865	3,194,738
合計	3,154,658	3,373,424
他勘定振替高	4 17	4 92
製品期末たな卸高	178,686	181,470
製品売上原価	2,975,954	3,191,862
商品期首たな卸高	34,044	33,699
当期商品仕入高	3,100,536	3,664,820
合計	3,134,580	3,698,519
商品期末たな卸高	33,699	128,716
商品売上原価	3,100,880	3,569,802
売上原価合計	6,076,835	6,761,665
売上総利益	1,721,440	1,691,390
<b>販売費及び一般管理費</b>		
運搬費	341,672	352,502
広告宣伝費	1,030	370
貸倒引当金繰入額	4,090	1,569
役員報酬	102,120	106,560
株式報酬費用	-	8,634
給料及び手当	286,973	292,458
賞与引当金繰入額	42,610	44,060
役員賞与引当金繰入額	6,660	6,660
退職給付費用	15,115	14,410
役員退職慰労引当金繰入額	23,663	3,396
福利厚生費	67,060	68,513
交際費	12,473	18,252
旅費及び通信費	52,733	49,932
水道光熱費及び消耗品費	22,106	20,931
租税公課	31,962	33,013
減価償却費	18,581	18,286
修繕費	6,060	8,878
保険料	11,007	11,567
賃借料	36,356	43,650
研究開発費	1 333,068	1 310,174
雑費	136,257	111,590

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
販売費及び一般管理費合計	1,551,603	1,525,413
営業利益	169,837	165,976
営業外収益		
受取利息	2,479	2,695
受取配当金	13,231	13,772
不動産賃貸料	64,058	59,138
デリバティブ評価益	1,005	-
デリバティブ決済益	8,298	10,485
助成金収入	4,900	3,162
その他	12,986	8,728
営業外収益合計	106,960	97,982
営業外費用		
支払利息	5,681	4,001
社債利息	6,354	3,701
為替差損	18,206	176
デリバティブ評価損	-	13,863
社債発行費	9,289	1,109
減価償却費	4,620	4,449
その他	3,361	4,191
営業外費用合計	47,514	31,493
経常利益	229,282	232,465
特別利益		
投資有価証券売却益	571	-
固定資産売却益	10	405
特別利益合計	581	405
特別損失		
固定資産処分損	11,350	6,907
役員退職慰労金	-	233
投資有価証券評価損	2,020	-
関係会社株式評価損	4,423	-
減損損失	-	7,045
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	4,510	-
特別損失合計	22,304	14,186
税引前当期純利益	207,559	218,684
法人税、住民税及び事業税	103,308	98,044
法人税等調整額	34,831	53,877
法人税等合計	68,477	44,166
当期純利益	139,082	174,517

【製造原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)		当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
原材料費		1,110,385	37.3	1,278,682	40.0
労務費	1	740,584	24.8	768,744	24.0
経費	2	1,128,332	37.9	1,151,602	36.0
当期総製造費用		2,979,303	100.0	3,199,028	100.0
期首仕掛品たな卸高		60,689		85,559	
合計		3,039,993		3,284,587	
期末仕掛品たな卸高		85,559		81,797	
他勘定振替高	3	2,568		8,052	
当期製品製造原価		2,951,865		3,194,738	

(前事業年度)

1. 労務費には賞与引当金繰入額70,590千円及び退職給付費用29,335千円が含まれております。
2. 経費のうち主要なものは次のとおりであります。

項目	金額(千円)
(1) 動力費	247,351
(2) 燃料費	179,139
(3) 減価償却費	367,949
(4) 修繕費	120,184
(5) 工場消耗品費	53,621

3. 他勘定振替高の内訳は次のとおりであります。

項目	金額(千円)
試作品等	2,568

(当事業年度)

1. 労務費には賞与引当金繰入額73,340千円及び退職給付費用32,806千円が含まれております。
2. 経費のうち主要なものは次のとおりであります。

項目	金額(千円)
(1) 動力費	248,607
(2) 燃料費	217,821
(3) 減価償却費	327,886
(4) 修繕費	144,158
(5) 工場消耗品費	53,804

3. 他勘定振替高の内訳は次のとおりであります。

項目	金額(千円)
試作品等	8,052

(原価計算の方法)

制度としての原価計算は実施しておりません。なお、原価計算は実際額の集計によっております。

## 【株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
<b>株主資本</b>		
<b>資本金</b>		
当期首残高	871,500	871,500
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	871,500	871,500
<b>資本剰余金</b>		
<b>資本準備金</b>		
当期首残高	435,622	435,622
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	435,622	435,622
<b>資本剰余金合計</b>		
当期首残高	435,622	435,622
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	435,622	435,622
<b>利益剰余金</b>		
<b>利益準備金</b>		
当期首残高	184,475	184,475
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	184,475	184,475
<b>その他利益剰余金</b>		
<b>固定資産圧縮積立金</b>		
当期首残高	87,601	83,482
当期変動額		
固定資産圧縮積立金の積立	-	6,347
固定資産圧縮積立金の取崩	4,118	4,038
当期変動額合計	4,118	2,308
当期末残高	83,482	85,791
<b>別途積立金</b>		
当期首残高	2,609,100	2,609,100
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	2,609,100	2,609,100
<b>繰越利益剰余金</b>		
当期首残高	164,045	251,271
当期変動額		
固定資産圧縮積立金の積立	-	6,347
固定資産圧縮積立金の取崩	4,118	4,038
剰余金の配当	55,975	55,970
当期純利益	139,082	174,517

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
当期変動額合計	87,225	116,238
当期末残高	251,271	367,509
利益剰余金合計		
当期首残高	3,045,222	3,128,328
当期変動額		
固定資産圧縮積立金の積立	-	-
固定資産圧縮積立金の取崩	-	-
剰余金の配当	55,975	55,970
当期純利益	139,082	174,517
当期変動額合計	83,106	118,547
当期末残高	3,128,328	3,246,876
自己株式		
当期首残高	82,796	82,934
当期変動額		
自己株式の取得	138	4,778
当期変動額合計	138	4,778
当期末残高	82,934	87,713
株主資本合計		
当期首残高	4,269,548	4,352,517
当期変動額		
剰余金の配当	55,975	55,970
当期純利益	139,082	174,517
自己株式の取得	138	4,778
当期変動額合計	82,968	113,768
当期末残高	4,352,517	4,466,286
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	228,694	196,911
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	31,783	33,383
当期変動額合計	31,783	33,383
当期末残高	196,911	230,294
評価・換算差額等合計		
当期首残高	228,694	196,911
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	31,783	33,383
当期変動額合計	31,783	33,383
当期末残高	196,911	230,294

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
<b>新株予約権</b>		
当期首残高	-	-
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	-	8,634
当期変動額合計	-	8,634
当期末残高	-	8,634
<b>純資産合計</b>		
当期首残高	4,498,243	4,549,428
当期変動額		
剰余金の配当	55,975	55,970
当期純利益	139,082	174,517
自己株式の取得	138	4,778
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	31,783	42,017
当期変動額合計	51,185	155,786
当期末残高	4,549,428	4,705,215

【重要な会計方針】

1. 有価証券の評価基準及び評価方法
  - (1) 子会社株式及び関連会社株式  
移動平均法による原価法
  - (2) その他有価証券  
時価のあるもの  
期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。）  
時価のないもの  
移動平均法による原価法
2. デリバティブの評価基準及び評価方法  
時価法
3. たな卸資産の評価基準及び評価方法
  - (1) 製品・仕掛品  
売価還元法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定しております。）
  - (2) 商品・原材料  
総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定しております。）
  - (3) 貯蔵品  
最終仕入原価法
4. 固定資産の減価償却の方法
  - (1) 有形固定資産（リース資産を除く）及び投資その他の資産（投資不動産）  
定率法（ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）については定額法）、礫山用土地については生産高比例法を採用しております。  
なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。
    - ・建物及び構築物 5～50年
    - ・機械装置及び車両運搬具 2～10年
  - (2) 無形固定資産（リース資産を除く）  
鉱業権については生産高比例法  
ソフトウェアについては自社における利用可能期間（5年間）に基づく定額法を採用しております。
  - (3) リース資産  
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法
  - (4) 長期前払費用  
定額法
5. 繰延資産の処理方法  
社債発行費  
支出時に全額費用として処理しております。
6. 引当金の計上基準
  - (1) 貸倒引当金  
売上債権等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。
  - (2) 賞与引当金  
従業員に対して支給する賞与に充てるため、当事業年度に負担する支給見込額を計上しております。
  - (3) 役員賞与引当金  
役員に対して支給する賞与に充てるため、当事業年度に負担する支給見込額を計上しております。
  - (4) 退職給付引当金  
従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務に基づき、当事業年度末において発生しているとみられる額を計上しております。
7. その他財務諸表作成のための重要な事項  
消費税等の会計処理の方法は税抜方式によっております。

【表示方法の変更】

(貸借対照表)

前事業年度において、「固定負債」の「その他」に含めていた「長期未払金」は、負債及び純資産の総額の100分の1を超えたため、当事業年度より独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「固定負債」の「その他」に表示していた36,604千円は、「長期未払金」18,100千円、「その他」18,504千円として組み替えております。

(損益計算書)

前事業年度において、「営業外費用」の「その他」に含めていた「減価償却費」は、営業外費用の総額の100分の10を超えたため、当事業年度より独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の損益計算書において、「営業外費用」の「その他」に表示していた7,982千円は、「減価償却費」4,620千円、「その他」3,361千円として組み替えております。

【追加情報】

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

当事業年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

(役員退職慰労引当金)

平成23年6月29日開催の第63回定時株主総会において、役員退職慰労金制度の廃止に伴う打切り支給を決議したことに伴い、役員退職慰労引当金を全額取崩し、将来の打切り支給予定額として固定負債の長期未払金に171,480千円計上しております。



## 【注記事項】

(貸借対照表関係)

1 固定資産の減価償却累計額は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
有形固定資産	9,609,076千円	9,960,067千円
投資その他の資産(投資不動産)	98,934	101,500

2 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

(財団抵当)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
建物	1,688千円	1,227千円
構築物	89,357	89,085
機械及び装置	701,580	615,163
土地	41,724	41,724
計	834,351	747,201

(不動産抵当)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
建物	51,667千円	48,543千円
構築物	5	0
機械及び装置	147	98
土地	13,447	13,447
投資不動産	23,761	22,841
計	89,029	84,930

(質権)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
投資有価証券	338,803千円	355,090千円

担保付債務は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
短期借入金	130,000千円	50,000千円
1年以内返済予定の長期借入金	52,706	74,980
長期借入金	110,494	221,339
計	293,200	346,319

なお、中国礪業(株)の金融機関からの借入金残高30,012千円(前事業年度 36,324千円)に対して土地19,655千円を担保に供しております。

3 関係会社項目

関係会社に対する資産及び負債には区分掲記されたもののほか次のものがあります。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
流動負債		
買掛金	95,834千円	80,419千円

4 保証債務

次の関係会社について、金融機関からの借入に対し債務保証を行っております。

債務保証

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
丸尾(上海)貿易有限公司	24,852千円	丸尾(上海)貿易有限公司 - 千円
東莞立丸奈米科技有限公司	-	東莞立丸奈米科技有限公司 13,060
計	24,852	計 13,060

5 期末日満期手形

期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当事業年度の末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が期末残高に含まれております。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
受取手形	- 千円	83,478千円

( 損益計算書関係 )

1 研究開発費の総額

一般管理費に含まれる研究開発費は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
	333,068千円	310,174千円

2 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
車両運搬具	10千円	405千円

3 固定資産処分損の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
建物	11千円	594千円
機械及び装置	1,624	54
車両運搬具	104	4
工具、器具及び備品	470	44
解体・撤去費用	9,092	6,209
その他	47	-
計	11,350	6,907

4 他勘定振替高の内訳は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
その他	17	92

5 減損損失

当事業年度において、当社は以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

場所	用途	種類
北海道今金町	遊休資産	鉱業権

当社の事業は、炭酸カルシウムの製造・販売並びにこれらの付随業務の単一事業であることから、事業用資産は全体で1つの資産グループとし、貸貸用資産及び遊休資産は個別資産ごとにグルーピングをしております。

上記資産については、回収可能価額が帳簿価額を下回ったため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(7,045千円)として特別損失に計上しました。

なお、遊休資産の回収可能価額は正味売却価額により測定しております。正味売却価額は、鉱業権については調査の結果、原石の質が悪く使用が困難なため備忘価額1円としております。

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首株式数(千株)	当事業年度増加株式数(千株)	当事業年度減少株式数(千株)	当事業年度末株式数(千株)
普通株式	514	1	-	515
合計	514	1	-	515

(注)普通株式の自己株式の株式数の増加1千株は、単元未満株式の買取りによる増加1千株であります。

当事業年度(自平成23年4月1日至平成24年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首株式数(千株)	当事業年度増加株式数(千株)	当事業年度減少株式数(千株)	当事業年度末株式数(千株)
普通株式	515	36	-	552
合計	515	36	-	552

(注)普通株式の自己株式の株式数の増加36千株は、取締役会の決議に基づく取得(36千株)及び単元未満株式の買取り(0千株)による増加であります。

(リース取引関係)

1.ファイナンス・リース取引(借主側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

(1)リース資産の内容

有形固定資産

主として、情報システムサーバー(「工具、器具及び備品」)であります。

(2)リース資産の減価償却の方法

重要な会計方針「4.固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっておりますが、その内容は重要性が乏しいため省略しております。

2.オペレーティング・リース取引(借主側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位:千円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
1年内	846	371
1年超	371	-
合計	1,217	371

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式(当事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式12,076千円、関連会社株式2,000千円、前事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式12,076千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳は次のとおりであります。

	(単位：千円)	
	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
繰延税金資産		
退職給付引当金	198,074	177,220
役員退職慰労引当金(長期未払金)	68,783	61,029
賞与引当金	54,051	52,384
減価償却超過額	6,233	11,424
投資有価証券評価損	43,266	37,890
減損損失	46,878	42,832
貸倒引当金繰入限度超過額	5,477	5,525
社会保険料(賞与分)	6,585	6,739
環境対策費	7,355	6,441
その他	24,144	24,171
小計	460,850	425,661
評価性引当額	248,092	168,138
繰延税金資産合計	212,757	257,522
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	108,850	104,248
固定資産圧縮積立金	57,155	48,042
繰延税金負債合計	166,005	152,291
繰延税金資産の純額	46,752	105,231

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異がありますが、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳は次のとおりであります。

	(単位：%)	
	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
法定実効税率	40.6	40.6
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	2.5	3.5
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	1.3	1.2
住民税均等割額	4.0	3.8
試験研究費の総額に係る法人税額の特別控除	12.4	10.3
評価性引当額の増減	0.3	25.8
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	-	10.4
その他	0.1	0.8
税効果会計適用後の法人税等の負担率	33.0	20.2

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」（平成23年法律第114号）及び「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」（平成23年法律第117号）が平成23年12月2日に公布され、平成24年4月1日以後に開始する事業年度から法人税率の引下げ及び復興特別法人税の課税が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の40.6%から平成24年4月1日に開始する事業年度から平成26年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については38.0%に、平成27年4月1日に開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異については、35.6%となります。

この税率変更により、繰延税金資産の金額（繰延税金負債の金額を控除した金額）は8,000千円減少し、法人税等調整額が22,792千円、その他有価証券評価差額金が14,792千円、それぞれ増加しております。

（資産除去債務関係）

当事業年度末（平成24年3月31日）

1. 資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

重要性が乏しいため記載を省略しております。

2. 資産除去債務のうち貸借対照表に計上していないもの

当社は砒山用土地の一部について閉山時に採掘跡などの保全義務を有しておりますが、その時期や保全範囲が明確でないことから資産除去債務を合理的に見積ることができません。従いまして当該債務に見合う資産除去債務を計上しておりません。

（1株当たり情報）

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
1株当たり純資産額	406.42円	420.92円
1株当たり当期純利益金額	12.42円	15.61円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	-円	15.51円

（注）1. 前事業年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益金額（千円）	139,082	174,517
普通株主に帰属しない金額（千円）	-	-
普通株式に係る当期純利益金額（千円）	139,082	174,517
期中平均株式数（千株）	11,194	11,180
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額		
当期純利益調整額（千円）	-	-
普通株式増加数（千株）	-	71
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式の概要		-

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

## 【附属明細表】

## 【有価証券明細表】

## 【株式】

銘柄		株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)
投資有価証券	その他有価証券	日本ペイント(株)	254,650
		Oriental Silicas Corporation	184,236
		(株)三井住友フィナンシャルグループ	73,248
		明治ホールディングス(株)	42,295
		バンドー化学(株)	33,165
		菊水化学工業(株)	30,866
		オカモト(株)	28,847
		(株)丸運	21,400
		(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	19,924
		(株)みなと銀行	19,743
		日東電工(株)	18,039
		日鉄鉱業(株)	18,007
		神東塗料(株)	10,792
		その他(36銘柄)	73,242
計		2,572,557	828,458

## 【その他】

種類及び銘柄		投資口数等(万口)	貸借対照表計上額 (千円)
投資有価証券	その他有価証券	(投資信託受益証券)	
		MHAMスリーウェイオープン	4,816
計		515	4,816

## 【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価償却累計額又は償却累計額 (千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末残高 (千円)
有形固定資産							
建物	2,231,950	79,998	10,044	2,301,905	1,532,448	54,061	769,456
構築物	403,112	11,370	-	414,482	321,292	12,574	93,190
機械及び装置	8,227,812	200,938	12,347	8,416,402	7,686,292	274,104	730,110
車両運搬具	62,976	6,180	880	68,276	58,505	9,505	9,770
工具、器具及び備品	368,918	13,581	7,097	375,402	347,575	26,614	27,826
鉱山用土地	23,979	-	-	23,979	1,157	-	22,822
土地	539,210	-	-	539,210	-	-	539,210
リース資産	15,528	185	-	15,713	12,795	3,607	2,917
建設仮勘定	3,200	343,126	312,069	34,257	-	-	34,257
有形固定資産計	11,876,687	655,381	342,439	12,189,630	9,960,067	380,467	2,229,562
無形固定資産							
鉱業権	38,981	-	7,045 (7,045)	31,936	-	-	31,936
ソフトウェア	14,871	-	-	14,871	11,075	2,283	3,796
その他	-	2,947	-	2,947	882	222	2,064
無形固定資産計	53,853	2,947	7,045 (7,045)	49,755	11,957	2,506	37,797
長期前払費用	16,091	3,053	17,461	1,683	-	-	1,683
投資不動産	392,087	-	-	392,087	101,500	2,566	290,586

(注) 1. 当期増加額のうち主なものは、次のとおりであります。

増加額	建物	本社	福利厚生施設	65,719
		本社工場	エバーライン製造設備	11,319
	機械及び装置	本社工場	化合炭酸カルシウム製造設備	107,190
			エバーライン製造設備	26,476
		土山工場	化合炭酸カルシウム製造設備	39,283
		土浦工場	化合炭酸カルシウム製造設備	20,086
	建設仮勘定	本社	福利厚生施設	65,719
		本社工場	化合炭酸カルシウム製造設備	107,190
			エバーライン製造設備	26,476
		土山工場	化合炭酸カルシウム製造設備	39,283
	土浦工場	化合炭酸カルシウム製造設備	20,086	

2. 「当期減少額」欄の( )内は内書きで、減損損失の計上額であります。



## 【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	13,476	6,858	-	5,289	15,046
賞与引当金	133,000	138,000	133,000	-	138,000
役員賞与引当金	6,660	6,660	6,660	-	6,660
役員退職慰労引当金	169,250	3,396	1,166	171,480	-

(注) 1. 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」は、主に個別債権に対する貸倒引当金洗替によるもの4,686千円、回収によるもの595千円であります。

2. 役員退職慰労引当金の「当期減少額(その他)」は、制度廃止に伴う長期未払金への振替によるものであります。

## (2)【主な資産及び負債の内容】

## 流動資産

## イ．現金及び預金

区分	金額(千円)
現金	15
預金	
当座預金	424,111
普通預金	97,412
定期預金	115,000
別段預金	1,190
小計	637,713
合計	637,729

## ロ．受取手形

## ( ) 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
木曾興業(株)	112,570
大日本塗料(株)	56,262
神東塗料(株)	43,594
アサヒゴム(株)	39,253
双葉化学(株)	25,911
その他	311,869
合計	589,461

## ( ) 期日別内訳

期日別	金額(千円)
平成24年 3月満期	83,478
" 4月満期	132,501
" 5月満期	139,903
" 6月満期	120,555
" 7月満期	69,081
" 8月満期	27,380
" 9月満期	16,561
合計	589,461

八．売掛金

( ) 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
日本ペイント(株)	554,980
(株)明治	385,288
横浜ゴム(株)	204,040
ポンドケミカル商事(株)	172,347
菊水化学工業(株)	167,217
その他	1,522,529
合計	3,006,404

( ) 売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高(A) (千円)	当期発生高(B) (千円)	当期回収高(C) (千円)	当期末残高(D) (千円)	回収率(%)	滞留期間(日)
2,573,336	8,862,716	8,429,648	3,006,404	73.7	115

(注) 消費税等の会計処理は税抜方式を採用しておりますが、上記「当期発生高」には消費税等が含まれております。

$$\text{回収率} = \frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$$

$$\text{滞留期間} = \frac{[(A) + (D)] \times 1 / 2}{(B)} \times 366$$

二．商品及び製品

区分	金額(千円)
商品	
化合炭酸カルシウム	3,471
重質炭酸カルシウム	6,207
その他	119,037
小計	128,716
製品	
化合炭酸カルシウム	166,809
重質炭酸カルシウム	8,698
その他	5,961
小計	181,470
合計	310,186

ホ．仕掛品

区分	金額(千円)
化合炭酸カルシウム	77,293
重質炭酸カルシウム	4,503
合計	81,797

## へ．原材料及び貯蔵品

区分	金額(千円)
原材料	
石灰石	22,093
コークス	15,294
紙袋等	17,405
薬品等	74,244
小計	129,037
貯蔵品	
修繕部品	33,543
消耗品	6,448
工場燃料	4,104
その他	5,244
小計	49,341
合計	178,379

## 流動負債

## イ．支払手形

## ( ) 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
大和ハウス工業(株)	66,022
太平洋セメント(株)	14,140
(株)羽富鉄工所	12,670
研光通商(株)	8,505
日本ルフト(株)	6,279
その他	35,746
合計	143,363

## ( ) 期日別内訳

期日別	金額(千円)
平成24年4月満期	20,370
〃 5月満期	9,995
〃 6月満期	22,901
〃 7月満期	90,096
合計	143,363

(注) 設備関係支払手形 (82,266千円)含んでおります。

ロ．買掛金

相手先	金額(千円)
中国礫業(株)	327,908
富士タルク工業(株)	222,357
三共精粉(株)	127,930
(株)ニッチツ	117,570
日鉄鉱業(株)	104,048
その他	683,611
合計	1,583,426

固定負債

イ．社債 567,000千円

内訳は、1 連結財務諸表等(1) 連結財務諸表 連結附属明細表 社債明細表に記載しております。

ロ．退職給付引当金

区分	金額(千円)
退職給付債務	494,478
合計	494,478

(3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	1,000株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 大阪府中央区伏見町3丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内1丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所 買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	当社の公告方法は、電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。 なお、電子公告は当社ホームページに掲載しており、そのアドレスは次のとおりであります。 <a href="http://www.maruo-cal.co.jp/">http://www.maruo-cal.co.jp/</a>
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、会社法第166条第1項の規定による請求をする権利及び株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利以外の権利を有していません。

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第63期）（自平成22年4月1日至平成23年3月31日）平成23年6月29日近畿財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成23年6月29日近畿財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

（第64期第1四半期）（自平成23年4月1日至平成23年6月30日）平成23年8月5日近畿財務局長に提出

（第64期第2四半期）（自平成23年7月1日至平成23年9月30日）平成23年11月8日近畿財務局長に提出

（第64期第3四半期）（自平成23年10月1日至平成23年12月31日）平成24年2月8日近畿財務局長に提出

(4) 臨時報告書

平成23年5月23日近畿財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の4（監査公認会計士等の異動）の規定に基づく臨時報告書であります。

平成23年7月1日近畿財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）の規定に基づく臨時報告書であります。

(5) 自己株券買付状況報告書

報告期間（自平成23年11月1日至平成23年11月30日）平成23年12月13日近畿財務局長に提出

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。



独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成24年 6月28日

丸尾カルシウム株式会社

取締役会 御中

霞が関監査法人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 植田 益司 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 笹川 敏幸 印

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている丸尾カルシウム株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、丸尾カルシウム株式会社及び連結子会社の平成24年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

その他の事項

会社の平成23年3月31日をもって終了した前連結会計年度の連結財務諸表は、前任監査人によって監査されている。前任監査人は、当該連結財務諸表に対して平成23年6月29日付けで無限定適正意見を表明している。

#### < 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、丸尾カルシウム株式会社の平成24年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

#### 内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、丸尾カルシウム株式会社が平成24年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

---

(注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. 連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書

平成24年 6月28日

丸尾カルシウム株式会社

取締役会 御中

霞が関監査法人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 植田 益司 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 笹川 敏幸 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている丸尾カルシウム株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの第64期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、丸尾カルシウム株式会社の平成24年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### その他の事項

会社の平成23年3月31日をもって終了した前事業年度の財務諸表は、前任監査人によって監査されている。前任監査人は、当該財務諸表に対して平成23年6月29日付けで無限定適正意見を表明している。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. 財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。